‘07

NPO愛知ネット 活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

特定非営利活動法人

NPO愛知ネット　活動記録2007

特定非営利活動法人
NPO愛知ネット
Non-Profit Organization NPO Aichi Net

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

すべての活動は、
災害時の
情報のために。

NPO愛知ネットは、ホームページでボランティアへ呼びかけるとともに、
被災状況など必要な情報を逐次流してきました。
そこで痛感したのは、日ごろからの人と人の「つながり」と、
いざとなったときの「情報システム」の構築の必要性。
「災害救援」、「防災啓発」、「在日外国人支援」、「市民活動支援」の4つからなる活動は、
被災地でNPO愛知ネットが活動した時の「教訓」が生きています。

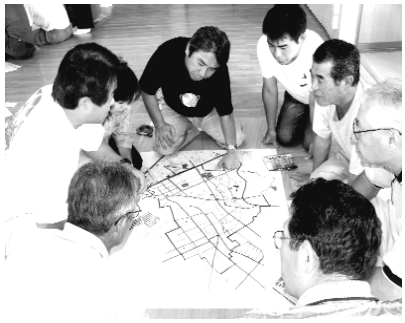
‘07

NPO愛知ネット

■防災･災害救援

Active in disaster & Preparedness

災害時には、被災地内外を問わずボランティアに関する支援活動を行います。支援に必要なひとの確保や手配を行い、地元のボランティアと連携してコーディネートを行います。また安否確認システムの普及を行います。



被災地での情報発信及び、被災地域外での情報支援活動
地域防災訓練の企画と実施
「あんぴメール」による安否確認システム構築

■社会教育

Social education

NPO愛知ネットは、愛知県青年の家が公の施設であることを認識し、公平･公正な運営を厳守し、全ての県民が、あらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実生活に即した教養を高められるように、愛知県青年の家として環境を整えた社会教育の場を提供します。同時に、当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養･向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指します。

「愛知県青年の家(岡崎市)」の運営

■市民活動団体サポート

NPO support

ボランティア活動団体、市民団体、ＮＰＯで活動しているみなさんが活動しやすい環境づくりを目指して、インターネット環境はもとより、「わくわくセンター」「刈谷市民ボランティア活動支援センター」を運営し、情報と市民活動支援の新しいあり方を提案しています。

「わくわくセンター」の運営
「刈谷市民ボランティア活動支援センター」の運営
市民団体情報化のための支援活動

■まちづくり

Town planning

災害時には日ごろからのつきあいやネットワークの力が役立ちます。それを充実させ活性化させていくことはまさに「防災の活動」といえます。ＮＰＯ愛知ネットでは、親子キャンプ･セミナーなど各種イベントの企画実行を通して日ごろからの「地域力向上」に貢献しています。

国際交流祭・親子キャンプなどの企画・実施
外国人のための生活情報支援
防災に関する講演会・セミナーの実施

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

■防災･災害救援

Active in disaster & Preparedness

近年の東海･東南海地震強化地域の拡充に伴って、ＮＰＯ愛知ネットに対する地域からの防災活動に関するニーズが以前にも増して多くなってきました。

このような状況に際してＮＰＯ愛知ネットはこれまで行ってきた各種の啓発･訓練、情報伝送に関する各種実証実験を統合し、地域に根ざす実効性のある事業を実施しました。

具体的には各地防災訓練への参加、安否確認システムの普及のための活動がそれにあたります。

また、全国各地で相次いだ災害により被災した地域に赴き、情報発信支援やボランティアバスの派遣など積極的に救援活動を行いました。

Ⅰ．『安否確認システム』

災害時、安否確認は重要なことのひとつですが、この安否確認システムは今までのシステムとは違うあたらしい形式の仕組みです。携帯電話を使ったこの安否確認システムは、災害が起こると自動的にシステムが各人の安否を確認し、応答するとあらかじめ登録された家族などに応等文が転送される仕組みです。またこの他に情報収集機能や普段から使えるしくみなども搭載しています。

１．あんぴメールの主な機能

【安否確認】

あんぴメールシステムは、日本気象協会の気象情報を常にモニタしています。
東海４県エリアで震度５以上は発生すると登録者の携帯電話にメールを自動配信して、各人の安否を確認します。確認された情報はあらかじめ登録した家族の携帯電話にメールでしらせます。また安否確認状況を管理画面で確認したり、遠くにいる親戚が検索して確認する機能も搭載しています。

【災害情報収集】

あんぴメールシステムは、一方で個人からきめ細かい被害情報を収集することを目的にして開発されました。個人個人の携帯から発せられる細かい情報を相対的に見ることで、救援や対策に確実なプライオリティがつけられると考えたからです。 安否確認メール発信後、システムは災害情報募集メールを再び登録者に発信し、災害状況の報告を促します。現在は時系列で情報が表示されるのみですが、電柱管理番号を使ったＧＩＳ（地理情報システム）プロットの機能を搭載する予定です。これにより、各人の携帯電話から発信された文字情報と画像情報、位置情報が瞬時に収集され、状況をつかむことができます。

【普段でも使える工夫】

普段でも使える工夫として、日本気象協会提供の気象情報の中から、天気予報、警報、東海地震に関する情報、エリア内での震度３、４の地震情報を配信する機能を搭載しています。また、管理者から任意のメッセージを配信できるほか、質問文を任意で変更できる機能や、音声のやり取りのみで情報を登録できる機能も開発中です。

２．防災ＮＰＯ愛知ネット「あんぴメール」県内自治体も利用検討

災害時の救援活動などに取り組むＮＰＯ法人「ＮＰＯ愛知ネット」（安城市）が開発した安否確認システム「あんぴメール」が注目を集めています。地震などの発生時、自分の安否や居場所を携帯電話の電子メールを使って知らせることができるほか、災害情報の収集にも役立つ機能が盛り込まれています。家族や会社のほか、県内自治体も利用を検討しています。

「あんぴメール」は、阪神大震災が発生して9年目に当たる昨年1月17日に立ち上げました。日本気象協会と協力し、震度5弱以上の地震が発生すると、システムに登録した会員に災害情報が自動的に配信されます。

受け取った会員は、自らの安否や避難場所などを入力し、あらかじめ入力した複数の相手に知らせることができます。また、同ネットのホームページでも登録者の安否情報が検索できる。難しい文字の入力などは不要で、画面表示に従い、ボタン操作をするだけです。同様のシステムは民間企業も開発しているが伝言板方式が多く、あんぴメールは直接、家族などに情報を送ることができるのが利点。

もう1つの機能として災害情報の伝達があります。会員は、カメラ付き携帯電話などの機能を活用し、道路の陥没や家屋の倒壊、水道管の破裂状況などを撮影。電柱の管理番号を入力するだけで全地球測位システム（ＧＰＳ）機能が働き、撮影場所の被災状況を写真付きで伝えられます。この機能は、自治体の職員が自宅から役場などに向かう途中にも利用できることから、情報収集手段としても注目されています。

登録費は1人、1カ月１００円（消費税別）。会員は県内中心に現在は約4000人だが、60年前に三河地震の被害を受けた安城市や西尾市などが利用を検討しています。

天野竹行理事長は「自らの安否を知らせるだけでなく、被災状況を早く伝えることも大切。日頃から災害のことを意識し、いざという時に備えてほしい」と話しています。

http://dprec.aitech.ac.jp/aisite/modules/news/index.php?storytopic=6&start=15

愛知工業大学 地域防災研究センター HP から引用

2007 年度あんぴメール新規加入団体

団体名	契約人数	加入対象
碧南市役所	400 名	市役所職員、消防団、議員、町内会役員、学校関係者等
名古屋商工会議所	50 名	

緊急通報メール配信

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

3．『安全安心メール』

昨今、子どもたちに対する痛ましい事件が続きます。地域に暮らす皆さんが力を合わせて、子どもたちが安全に過ごせるまちづくりをしていくことが必要です。内閣府･安城市･NPO 愛知ネットで実施している「地域情報流通システムによる《安全･安心》プロジェクト」の一環として、防犯･防災情報を携帯電話やパソコンにメール配信します。登録方法はいたって簡単です。安城市ホームページからも登録できるほか、携帯電話からも登録できます。登録者数は約 2000 名（2007 年 3 月 15 日現在）となっています。

不審者情報 メールで

安城市 希望者の登録を開始

安城市が二月から試行する携帯電話やパソコンのメールを使った防犯、防災情報の配信システムで、利用希望者の登録が始まった。

内閣府と民間非営利団体「NPO愛知ネット」とともに研究を進めているシステムで、市教育委員会に寄せられた不審者情報、地震や気象警報などがメールで送られてくる。情報料は無料だが、メールの通信料などは自己負担となる。

登録はパソコンや携帯電話でホームページにアクセスし、説明に従って不審者の情報が必要な地域を選ぶなどする。三月末まで試行しアンケートの協力を求める場合もある。試行期間中に問題点を洗い出し、市は四月から本格稼働する予定。

登録するホームページのアドレスは、パソコンがhttp://www.a-ansin.jp、携帯電話はhttp://www.a-ansin.jp/r

（村瀬 悟）

06.01.17 中日新聞

【パソコンからの登録】
登録ＵＲＬ　＝　http://www.a-ansin.jp
安城市 HP　＝　http://www.city.anjo.aichi.jp/

【携帯電話から登録】
登録ＵＲＬ　＝　http://www.a-ansin.jp/r

Ⅱ. 防災･災害救援活動実績

1．防災訓練

(1) 愛知県総合防災訓練（愛知県、日進市主催）

日進市の防災訓練会場からあんぴメール機能を使って現地情報を送信、愛知県東大手庁舎の広域ボランティア支援本部に設置したプロジェクターで映し出し、支援本部全員情報共有を迅速･確実な周知に努めました。

日　時 ： 9 月 2 日　9:00～16:00
場　所 ： 日進市総合運動公園、
　　愛知県東大手庁舎 1 階 NPO 交流プラザ C 会議室
参加者 ： 約 30 名
担当者 ： 【日 進 会 場】山下（克）会員、横山理事、大野
　　【東大手庁舎】加藤、松原、南里、山下

（２）トヨタ災害ボランティア体験

日頃からお世話になっているボランティアの方々、また現場体験型 NPO 研修でお見えになっており方々の力をおかりして、愛知ネットとしては、シューターによる脱出体験、消火器訓練、ロープワーク、応急手当などを行いました。

日　時 ： 11 月 18 日　9:00～17:00
場　所 ： トヨタスポーツセンター
参加者 ： 参加者数：４９名（愛知ネット：２０名、豊田市社協：５名、家具転倒防止サークル：２名）
担当者 ： 山下(克)会員、天野、大野、南里、松原、県インターンシップ職員の皆さん

（３）新田町自主防防災組織 DIG 訓練

安城市内の、小山町･新田町･弁天町にお住まいの 町内会 20 名様に御参加いただき、「地震が起きるとわが町はどうなるのか、どんな防災資源があるのか」を図上で検討、確認していただきました。会長さん、役員さんを中心に、非常にまとまった地域で、皆さん立ったままで訓練に取り組まれるシーンもあり、また訓練終了後のアンケートでは、ほとんどの皆さんが“減災への取り組みの必要性を考えたい”という結果になり、今後の防災活動のますますの発展が期待されます。

日　時 ： 1 月 19 日　10:00～12:00
場　所 ： 新田町第二公民館
参加者 ： 22 名
担当者 ： 松原、南里、山下

２．防災講座

（１）安城市災害 VC 養成講座（安城市生涯学習課主催）

災害時に、被災者支援の協力体制を築くために重要な役割を担う災害ボランティアコーディネーターの養成を目的に開催しました。

日　時 ： 5 月 13 日、6 月 24 日、8 月 5 日、9 月 16 日
　　各会 9:00～12:00　全 4 回
場　所 ： 安城市文化センター、西会館
参加者 ： 62 人
担当者 ： 松原、南里、山下

（２） 碧南市立大浜幼稚園防災講座

一般的な地震の話、小さなお子さんがいる家庭の防災についての話、簡単なロープワークの紹介をしました。

日　時 ： 9 月 4 日 9:30～10:30
場　所 ： 碧南市立大浜幼稚園
参加者 ： 約 80 名
担　当 ： 松原

（３）外国人のための防災講座

安城市市民会館において、ポルトガル語圏のブラジル人の方を対象に、「外国人防災講座」を行いました。

日　時 ： 10 月 28 日、11 月 25 日　各 10:00～12:00　全 2 回
場　所 ： 安城市市民会館、安城市文化センター
参加者 ： 110 人
担当者 ： 松原、南里、山下

（４）安城市制 55 周年防災フェア

あんぴメールの紹介と、来年から運用が開始される予定の耐震シミュレーターの体験を行いました。

日　時 ： 11 月 25 日　9:00～15:00
場　所 ： 文化センター
参加者 ： 890 名
担　当 ： 松原、南里、山下

（５）職員向け防災ミニ講座

職員の防災啓発、スキルアップとして、あんぴメール、緊急地震速報、三角巾の使用法などを行いました。月 2 回ペースで講座を行っています。

日　時 ： 安城センター　　1 月 23 日、2 月 20 日
　　刈谷センター　　1 月 24 日
　　ちさぽん　　1 月 23 日、2 月 20 日
　　青年の家 1 月 17 日、3 月 28 日
参加者 ： 約 40 名
担　当 ： 松原、南里、山下

（６）遊防災（あそぼうさい）

マイトイレの紹介、ハイゼックス米作り、炊き出しの試食、防災カルタなどを通じて、子どもから大人まで楽しく防災を学びました。

日　時 ： 2 月 3 日 10:30～14:00
場　所 ： 刈谷市民活動支援センター(刈谷センター)
参加者 ： 70 名
担当者 ： 天野、大野、山下、南里、刈谷スタッフ

（７）防災＆ボランティアフォーラム 2008(愛知県、名古屋市主催)

名古屋市栄にあるオアシス 21 および NHK プラザウェーブ 21 で開催されました。これは、防災のための愛知県ボランティア連絡会の各団体が連携して開催したもので、寒空の中でしたが、子供からご年配の方まで、幅広くそして多くの方の御参加をいただき、意識啓発を促しました。

日　時 ： 1 月 20 日　10:00～15:00
場　所 ： オアシス21、NHK名古屋放送局
参加者 ： 約 23,580 人
担当者 ： 小野、松原、南里、山下

（８）自主防災リーダー研修会(日本防火協会主催)

県内にある自主防災のリーダーの方を対象に、「シナリオストーリー」による研修会を、愛知県青年の家で行いました。シナリオストーリーとは、避難所において時間ごとに発生する課題を、“この立場だったら”という役割設定に応じて解決していくというもので、独立行政法人防災科学技術研究所で開発中の手法です。参加していただく皆さんのイメージ力がキモになりますが、時間が足りないという声があがるほど、盛り上がった研修となりました。

日　時 ： 1 月 26 日、27 日　9:00～15:00
場　所 ： 愛知県青年の家
参加者 ： 55 人（参加者数：40 名、スタッフ：15 名）
担当者 ： 内田氏、加藤氏、山下(克)会員、高桑理事、天野、松原、南里、山下

（９）多治見市災害ボランティア研修会(多治見市社会福祉協議会主催)

岐阜県は多治見市の社会福祉協議会で行われた研修会。「災害の理解と災害対策の心構え」について話をさせていただいた後に、ボランティアセンターの立ち上げ訓練に参加しました。この訓練では、ボランティアセンターの流れを体験するだけでなく、社会福祉協議会の強みを活かし、ガイドヘルプ体験なども行われ、義深いものになりました。多治見市は、多治見市と旧笠原町が合併した市で、特に近年の笠原地区の防災活動は顕著です。今回の訓練でもその活動の活発さが伺え、今後の多治見市の防災活動の展開が楽しみです。

日　時 ： 3 月 15 日　10:00～15:00
場　所 ： 多治見市社会福祉会館
参加者 ： 80 人
担　当 ： 山下、南里

(10) 吉良町シナリオ型避難所運営ワークショップ(独立行政法人防災科学技術研究所主催)

1 月 26 日、27 日に日本防火協会主催で実施したＷＳの第 2 弾として、より小規模なコミュニティを対象に、前回は参加いただけなかった女性や中学生など多様な参加者でシナリオ型のワークショップ手法による災害時のリスクコミュニケーションの向上を目的に行いました。

日　時 ： 3 月 23 日　9:00～16:00
場　所 ： 吉良町総合福祉センター
参加者 ： 44 名
担当者 ： 山下(克)会員、高桑理事、牧野(広)理事、天野、松原、南里、山下

３．会議・イベント

（１）防災のためのボランティア連絡会：全４回

（２）防災＆ボランティアフォーラム実行委員会：全 6 回

（３）防災＆ボランティアフォーラム２００８　1 月 20 日

（４）あいぼう会運営委員会：

（５）愛知・三河第 2 回メディカルラリー　3 月 8 日

（６）つくば社協ボランティアセンター立ち上げ訓練　8 月 11 日

つくば社協ボランティアセンター立ち上げ訓練

（７）あんぴメール

・ 碧南市あんぴメール講習会（4 月 12 日、13 日）
・ 高浜市あんぴメール講習会（5 月 16 日、6 月 5 日）
・ 災害ボランティアコーディネーターなごや　あんぴメール説明（6 月 9 日）
・ あんぴメール運営検討会議（8 月 8 日、10 月 12 日）
・ 避難生活支援セミナー　あんぴメール説明（12 月 11 日）

（８）起震車取り扱い講習

（９）震災がつなぐ全国ネットワーク

(10) 三遠南信ネットワーク交流勉強会（6 月 30 日）

(11) デンソーハートフルクラブ総会　ブース出展（7 月 21 日）

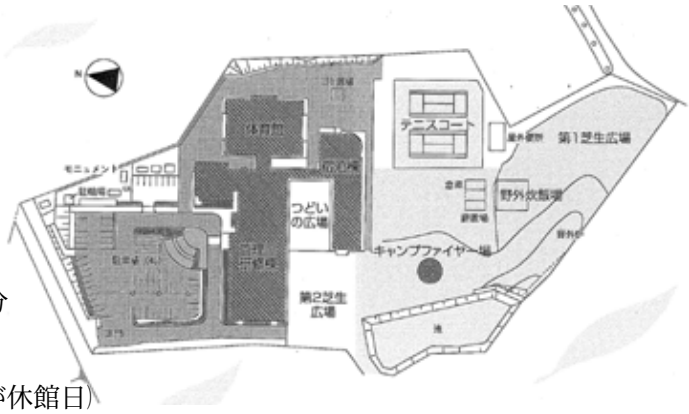
(12) 町内会向けワード講座初級、中級（10 月 19 日、22 日、25 日、26 日）

■ 社会教育
Soial education

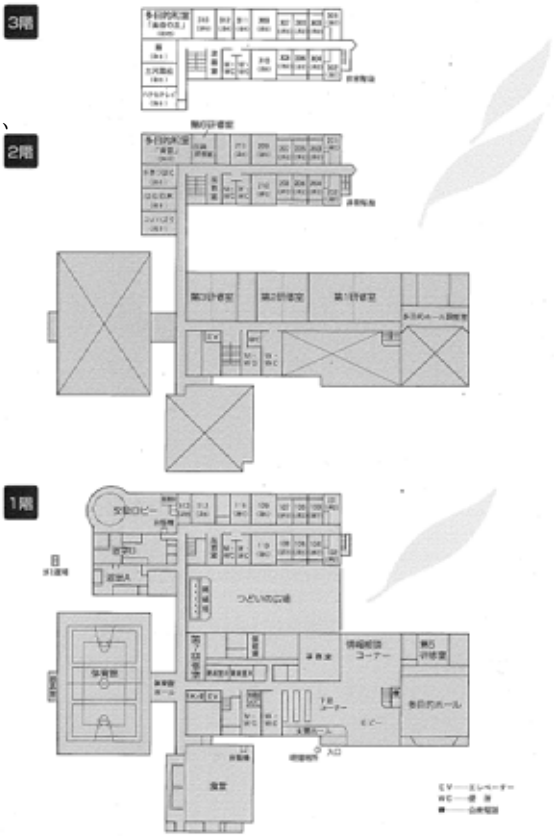
愛知県下唯一の県立青年の家である当施設は、青少年のみなさんが規律正しい集団宿泊生活をしながら、研修活動、野外教育活動、レクリエーション活動などを通して、協同･友愛･奉仕の精神を養い、よりよい社会人としての資質を身につけるためにつくられた社会教育施設です。

愛知県青年の家

施設概要



場　　所 ： 岡崎市美合町並松 1-2
電　　話 ： (0564) 51-2123
ファックス ： (0564) 51-2027
E-mail ： staff@aichi-yh.jp
URL ： http://aichi-yh.jp/
開館時間 ： 宿泊客無し 8 時 30 分～17 時 30 分
　　宿泊客有り 8 時 30 分～22 時
休 館 日 ： 毎週月曜日 (祝日の場合は火曜日が休館日)
主な施設 ：



管理棟･･･第 1 研修室 (99 人)、第 2 研修室 (63 人)、
第 3 研修室 (63 人)、
第 4 研修室 (多目的ホール<収納式椅子 192 人>)、
第 5 研修室 (36 人)、第 7 研修室 (18 人)、
ボランティアルーム (12 人)、
情報相談コーナー、保健室、更衣室 2 室、
食堂 (116 人収容可能)
宿泊棟…宿泊室 45 室 (洋室 37 室、和室 8 室)
洋室:2 人用 (バストイレ付) 6 室、
2 人用 (バストイレ無) 19 室、
4 人用 4 室、6 人用 8 室
和室:6 人用 6 室、
15 人用 (研修室兼用 2 室)、
第 6 研修室 (葵庵)、
交歓ロビー、浴室･シャワー室 2 室
体育館…バスケットボール (1 面)、バレーボール (1 面)、
バトミントン (3 面) など

Ⅰ．施 設 の 役 割 と 任 務

１．委託業務名・目的

（１）業　務　名：愛知県青年の家指定管理運営委託

（２）事業の目的：当該施設を社会教育拠点と位置づけ、地域の教育機関関連機関等と連携しながら、「青少年の『創造力』『生きる力』『和（役立ち合い）の精神』の教養･向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す」社会教育施設を目指す。

（３）実 施 期 間：平成19年4月1日(土)～平成 20 年 3 月 31 日(土)
（指定管理　平成23年3月31日まで）

２．施設の任務

（１）業 務 内 容：利用申込･受付･許可に関する業務、館内案内、利用案内、接遇業務、接客対応、電話対応、団体対応（学校行事･一般団体･視察等）、苦情対応等にあたる。青年の家利用者ニーズの把握とサービス向上に関する業務

Ⅱ.19 年度の実施結果

１．利 用 状 況 ・ 利 用 料 金

（１）利用状況

宿泊者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
19年宿泊者数	2,634	1,173	1,617	2,300	3,291	1,581	834	900	1,164	877	1,524	2,776	20,671
18年宿泊者数	2,460	892	1,325	1,934	3,165	916	1,070	371	1,066	954	677	2,312	17,142
17年宿泊者数	2,212	1,196	1,746	2,234	3,461	1,284	752	267	925	854	665	1,965	17,561
18年度比	174	281	292	366	126	665	-236	529	98	-77	847	464	3,529
17年度比	422	-23	-129	66	-170	297	82	633	239	23	859	811	3,110
	3,334	1,598	1,800	2,000	3,000							3,000	14,732
16年度	1999	1749	1135	1,499	2936	766	580	266	1,082	681	947	2,162	15,802

（２）　利用料金

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用料金	4,627,800	2,584,600	3,040,300	4,535,200	6,161,200	3,255,950	2,018,000	2,137,100	2,445,800	1,913,700	2,837,100	5,236,350	40,793,100
指定管理料	3,314,000	2,986,000	5,011,000	3,325,000	1,571,000	4,683,000	3,866,000	4,274,000	4,188,000	4,579,000	4,858,000	2,549,000	45,204,000
イベント収入		20,000	44,000			141,500	16,000			40,000	90,000		351,500
その他													
収入計	7,941,800	5,590,600	8,095,300	7,860,200	7,732,200	8,080,450	5,900,000	6,411,100	6,633,800	6,532,700	7,785,100	7,785,350	86,348,600
(参考)18年度利用料金	4,417,000	2,025,750	2,689,450	3,708,300	5,961,950	1,930,000	2,153,700	1,057,000	2,147,650	2,041,300	1,408,450	4,254,700	33,795,250
(参考)17年度利用料金	4,031,650	2,817,900	3,210,100	3,756,850	6,986,350	2,693,200	1,941,100	786,700	1,803,950	1,801,300	1,550,100	3,764,600	35,143,800
18年度比較	210,800	558,850	350,850	826,900	199,250	1,325,950	-135,700	1,080,100	298,150	-127,600	1,428,650	981,650	6,997,850
17年度比較	405,550	-233,300	-169,800	778,350	-825,150	562,750	76,900	1,350,400	641,850	112,400	1,287,000	1,471,750	5,649,300

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

Ⅲ. 主催事業

（１）週末活動支援事業

学校週５日制にともなう土曜休業日に、青年の家の特性をいかして、自然体験活動･野外活動工作活動等の事業を実施し、親子のふれあいや家族間交流が行える場を提供し、青年の家周辺地域とのふれあいを図る。

	事　業　名	開催期日	募集受付期間	内　容	参加費	対 象	定 員
1	やっぱり飛びたい！	H19.5月26日（土）	4月21日（土）～5月5日（土）	飛ばし物クラフト カートンドッグ･トルティーヤ フライングディスクゴルフ	1,000円	小学生とその保護者（親子）	50名（15家族程度）
2	やっぱりうどんが好き！	H19.6月23日（土）	5月19日（日）～6月2日（土）	手打ちうどん作り 釜揚げうどん ネイチャーゲーム	1,000円		
3	やっぱり炎はすごい！	H19.9月8日（土） ～9月9日（日） 【1泊2日】	8月4日（土）～8月18日（土）	草木染め 火起し器体験 ダッチオーブン料理 キャンプファイヤー ボイジャー	3,500円		
4	やっぱり食欲の秋！	H19.10月20日（土）	9月15日（土）～9月29日（土）	簡易炭焼き 燻製･五平餅･焼き芋 木の実･種子のクラフト	1,000円		
5	やっぱり正月あそび！	H20.1月19日（土）	12月8日（土）～12月22日（土）	手作り和凧 野外炊事･餅つき 凧揚げ	1,000円		

①　第１回:「やっぱり飛びたい！」

と　　き：平成 19 年 5 月 26 日（土）
参 加 者：6 家族　20 名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

7:00　開催判断
8:30　スタッフミーティング
9:30　受付開始
9:50　開会式
10:10　プチ科学タイム
10:30　フライングディスクづくり
11:30　野外炊事
13:30　ディスクゴルフ
15:15　閉会式
15:20　アンケート依頼
15:30　解散

②　第２回:「やっぱりうどんが好き！」

と　　き：平成 19 年 6 月 23 日（土）
参 加 者：15 家族　44 名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

7:00　開催判断
8:30　スタッフミーティング
9:30　受付開始
9:50　開会式
10:10　うどん打ち
12:10　うどんパーティー
13:40　ネイチャーゲーム
15:20　閉会式
15:30　アンケート依頼
15:40　解散

③　第３回:「やっぱり炎はすごい！」

と　　き：平成 19 年 9 月 8 日（土）～9 日（日）【1 泊 2 日】
参 加 者：13 家族　40 名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

9 月 8 日（土）第１日目

7:30　開催判断
8:30　スタッフミーティング
9:30　受付開始
9:50　開会式
10:10　家族ふれあいタイム
11:30　宿泊ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
12:30　昼食
13:30　野外炊事ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
14:00　火起し体験
15:30　野外炊事
17:00　食事　18:45 までに片付けと物品返納を行う。
19:00　キャンプファイヤー
20:30　入浴･就寝
22:30　スタッフミーティング

9月9日(日)第2日目

6:00 スタッフ起床
6:30 参加者起床
7:00 朝の集い
7:50 朝食
8:30 宿泊室退出と準備
9:10 草木染め体験
12:00 昼食
13:00 竹水鉄砲づくり
15:00 閉会式
15:30 参加者解散･撤収作業

④ 第4回:「やっぱり食欲の秋！」

と　　き：平成19年10月20日(土)
参 加 者：5家族 16名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

7:30 開催判断
8:30 スタッフミーティング
9:30 受付開始
9:50 開会式
10:10 クラフト材料集め
11:10 野外炊事
12:00 食欲の秋パーティー
13:30 芸術タイム
15:20 閉会式
15:30 アンケート依頼
15:40 解散

⑤ 第5回:「やっぱり正月あそび」

と　　き：平成20年1月19日(土)
参 加 者：12家族 40名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

7:30 開催判断
8:30 スタッフミーティング
9:30 受付開始
9:50 開会式
10:10 和凧作り
12:10 もちつき
12:30 昼食
13:30 正月あそび
15:20 閉会式
15:30 アンケート依頼
15:40 解散

（2） 青年の集い事業

交流から自己啓発を促すとともに協働･発展のきっかけとなる機会を提供し、青年と青年の家との連携を深める。

事　業　名	開催期日	募集受付期間	内　容	参加費	対 象	定 員
NPO新年交歓会	H20.1月19日(土) ～1月20日(日) 【1泊2日】	実:10月27日(土)～11月10日(土) 参:12月22日(土)～1月12日(土)	情報交換 新年交礼 懇親 実行委員会の組織	2,000円	NPO若手活動者	60名
ユースフォラム2007	H20.3月8日(土) ～3月9日(日) 【1泊2日】	実:10月6日(土)～10月27日(土) 参:1月12月(土)～2月16日(土)	分科会 研究･意見発表 交流 実行委員会の組織	3,000円	向上心を持つ若者	80名

① NPO交歓会

と　　き：平成20年2月29日(土)
参 加 者：企業19社29名、NPO関係29団体41名、自治体48名
第一部　午後1:30～3:00　NPO運営勉強会　講師:鵜尾雅隆氏
第二部　午後3:30～5:30　合同フォーラム　パネルディスカッション
テーマ:人を活かすボランティアマネージメントについて
第三部　午後5:45～7:30　交流会

② ユースフォーラム 2007

と　　き：平成 20 年 3 月 1 日(土)
参 加 者：90名
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

13:00 受付開始
13:20 開会式
13:30 団体紹介･自己紹介、交流①
14:15 活動報告、意見交換
15:00 実行委員会組織のご案内
15:15 活動予定発表
15:30 マッチング･交流②
15:50 閉会式
16:00 解散

（4）ユースワーカースキル向上支援事業

専門的･先進的な技術･知識を体験させ、具体的なスキル修得の機会を提供することで活動青年の資質向上を図る。

事　業　名	開催期日	募集受付期間	内　容	参加費	対 象	定 員
グループビルディング入門	H20.2 月16日(土) ～2 月17日(日) 【1泊2日】	1 月5日(土)～1 月26日(土)	プロジェクトアドベンチャー グループワークトレーニング イニシアティブゲーム 課題解決型ワーク	9,000円	青年活動を行っている若者	20名

と　　き：平成 20 年 3 月 1 日(土)
参 加 者：8 名　(学生:3 名、一般:5 名)
ｽｹｼﾞｭｰﾙ：

2 月 16 日(土) 1日目

8:30　受付開始
9:00　開会式
9:30　プロジェクトアドベンチャー講習
12:00　昼食
13:00　プロジェクトアドベンチャー講習
17:50　夕食
19:00　オリエンテーション
19:15　チャレンジ･ザ･ゲーム体験
22:00　入浴、就寝

2 月 17 日(日) 2 日目

6:30　起床
7:00　朝の集い
7:20　朝食
9:00　グループワークトレーニング講習
12:00　昼食
13:00　グループワークトレーニング講習
15:00　閉会式、解散

3．情報の発信

情報発信媒体として「ホームページ」･「青年の家ニュース」を活用しています。 写真を有効利用しレイアウトを統一させ、読みやすい構成に努めています。

（1） ホームページ

・ 利用状況の確認
・ 今後予定として事業参加者募集の告知等

（2） 青年の家ニュース

・ 記事として、利用していただいた団体の研修内容や青少年団によるユースコラムを掲載し、青年の家利用方法など研修向上
・ よりよく施設を活用していただくための方法を掲載。
・ 愛知県各市教育委員会･青年の家･青少年施設･各報道岡崎支局･ボランティアセンター･大学･専門学校に送付。

Ⅳ．平成 20 年度の課題

1. 目標

（１） 公の施設であることを認識し、公平、公正な運営を厳守する

（２） 県民に愛され、親しまれる生涯教育センターを目指す

（３） 青少年の「想像力」「生きる力」「和の精神」の教養・向上に寄与し、より良い社会人への成長を促す社会教育施設を目指す

（４） 経営の安定化を図り、施設の充実に努める。

２．克服する問題点

（１） 老朽化する施設、設備の改善

（２） 諸物価、値上がりによる経費増大

（３） 繁忙期(４、７、８、３月)での常連客の対応

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

Ⅰ.経済産業省受託事業【若者と中小企業とを結ぶネットワーク構築事業（通称：右腕事業）】

3カ年計画で、2006年度から受託している若者と中小企業とを結ぶネットワーク構築事業も、本年度が折り返し地点となっている。昨年度は、中小企業への長期実践型インターンシップ導入を目標に活動した。本年度は、

1)　中小企業の魅力がうまく発信できず学生・若者に伝わっていない点

2)　中小企業がより魅力をつける点

に着目し、学生・若者と中小企業の若手社員とが一緒になって学ぶ場としての**「強いジンザイ育成サロン」**を中心に展開した。活動の経緯は以下の通り。

本年度活動した結果、来年度は「強いジンザイ育成サロン」が東海地区の学長懇話会の認定を受け東海インターンシップ協議会に加盟する50ほどの大学の共通単位として採用されることが決まった。さらに来年度は、社長・経営者ネットワークを構築し、独自事業手しての基盤を作っていきた。

●企業探検隊バスツアーで質問する真剣な若者

Ⅱ. H19年度活動内容

4月13日	キックオフミーティング
5月～7月	企業探検隊（前期）を展開する
5月12日	イベント「エンタク」に参加、若者への浸透を図る
5月31日	活動内容、年間スケジュールを討議し、確定した
7月　3日	強いｼﾞﾝｻﾞｲ育成サロンを主軸とし、インターンシップや、探検隊はサロンを進めて行く上でのツールにすることを決定
6月～8月	サロン参加者を募集 企業発掘プロジェクト　若者発掘プロジェクト
8月～2月	強いジンザイ育成サロンを開催する
9月～12月	サロン単位化のため、各大学と交渉し、日福大で授業として認定を受ける
9月～2月	企業探検隊（後期）を展開する
1月	日福大で企業探検隊をテーマに授業を実施

■ 市民活動団体サポート
NPO support

昨年度まで進めてきたボランティアや市民活動を支援するセンターの管理運営を中心とする事業を引き続き実施していきます。今後は地域内分権がより進むことが予測されるため、それぞれの行政区域の特性を活かす事業が求められています。指定管理者による施設の運営とあわせて、ボランティア及び市民活動の促進を目的に、NPOとしての特性やノウハウを活かした事業をさらに展開していきたいと考えます。

刈谷市民ボランティア活動支援センター

センター概要

センター外観

場　　所：刈谷市寿町 1-409
電　　話：0566-62-8231
ファックス：0566-62-8232
E-mail：kcv109box@katch.ne.jp
URL：http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/
開館時間：10 時～21 時　但し、日曜日 10 時～17 時
休 館 日：毎週月曜日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
主な施設：交流スペース、談話スペース、作業スペース、情報スペース、メールボックス、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場
使用料金：コピー機使用は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参
※施設、ロッカー、その他機材使用は無料
談話スペース：登録団体が打ち合わせ、団体間の交流の場として利用。
※テーブルは 2 島有り 18 席と 18 席、36 席で利用することも可能
ロッカー：活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、27 個）
メールボックス：各団体間の連絡、文書・チラシの配布や団体宛の郵便物、ファックスの一時保管場所として利用。
（メールボックスの数は、36 個）
作業スペース：印刷機、紙折機、製本機、丁合機、裁断機、紙そろえ機、ラミネーターを設置。
＊ 貸出備品：プロジェクター、ノートパソコン、スタッフコート（10 着）、クリスマスツリー（2 セット）、サンタクロースの衣装、スポットライト、バルーンアート空気入れ（5本）、ビンゴマシン、布ぞうり製作台（6 台）本年度より

Ⅰ.センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

(1) **業 務 名**：刈谷市民ボランティア活動支援センター管理運営委託

(2) **事業の目的**：様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する

(3) **実施期間**：平成 19年 4 月 1 日(土)～平成 20 年 3 月 31 日(土)
（指定管理＝平成 22 年 3 月 31 日まで）

2. 刈谷市民ボランティア活動支援センターの任務

（１）情報の収集・提供業務

①「かりや市民ボランティア活動情報サイト」（ボランティア情報サイト）の管理運営、登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集などのコーディネート業務、サイト利用操作説明など

②刈谷市民ボランティア活動支援センターのＨＰ作成及び維持管理

③メールマガジン及び情報誌（ぼらっち。）等の発行

（２）活動場所の提供業務

①談話室の予約受付、貸出し等利用申し込みの対応

②印刷機器等設備の利用に関する事務

（３）意識啓発・普及業務

①意識啓発活動の実施（業務全体を通じて）

②啓発チラシパンフレット等の作成・更新

（４）人材育成・交流業務

①人材育成のための研修会を企画・運営（スキルアップ講座等）

②市民ボランティア活動団体の交流機会を増加するネットワーク構築
（ＮＰＯ・ボランティア活動に精通した講師をお呼びし、車座集会を開催）

（５）相談・連絡調整業務

①市民ボランティア活動に関する市民からの相談窓口としての機能（マッチング活動）

②ＮＰＯ法人認証取得のための相談への対応

Ⅱ.19 年度の実施結果

1. センターの利用実績

（１）登録団体

19 年度は 250 団体を目標に啓発活動を行ってきた。結果は 253 団体（前年比 110%）で目標達成することができた。そして新たに登録された団体の中には、センターが働きかけた「サークル虹」や「悠友会」「小山和楽会」「刈谷おもちゃ病院」など地域の市民活動団体及びＮＰＯ法人など幅広い分野の登録があった。

	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
登録団体数	130 団体	179 団体	208 団体	227 団体	253 団体	112%

（２）個人登録者

イベント時には大勢のボランティアさんが必要であるが、そのニーズをマッチングするに、個人登録の積極的な働きかけをしてきた。今後も団塊の世代の方の登録を促して行きたい。

	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
個人登録者	7 名	33 名	62 名	105 名	**129 名**	123%

（３）センターの利用者

総来館者数は、前年比 132%の伸びで、特に昨年談話スペースが広がり(18 席から 36 席)談話室利用者は149%と大幅な伸びとなった。相談人員は88%に減ったのは電話での相談が増えたのが要因の一つである。電話を含める相談件数は次表のように、H18 年:554 件、H19 年:624 件で増えている。

	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
総来館者	2,512 名	6,260 名	6,917 名	8,392 名	**11,072 名**	132%
談話室	1,065 名	2,965 名	2,935 名	4,354 名	**6,478 名**	149%
相談	248 名	503 名	606 名	637 名	**562 名**	88%
印刷	315 名	1,248 名	1,503 名	1,358 名	**1,678 名**	124%
その他	884 名	1,544 名	1,873 名	2,043 名	**2,352 名**	115%

（平成 15 年度は開設期間が半年間の実績である）

（４）市外からの視察状況

市外からの視察件数は、各市にも支援センターが設置されてきたため、減少傾向にはあるものの、先進施設であり、又上手くやっているセンターということで、19 年度は 15 団体 87 人の視察があった。東は茨城県の常陸太田市、西は愛媛県の西条市からもあり、市役所(行政職員)および議員の方が多かった。関心は施設運営や管理方法などで、事前にホームページを見てきたという団体が多かった。

	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
団体数	23 団体	26 団体	24 団体	21 団体	**15 団体**	71%
人員	135 名	87 名	176 名	100 名	**87 名**	87%

２．事業の特質（工夫した点など）⇒相談機能の充実

（１）相談実績

相談対応件数は着々と伸び、市民からも頼りにされつつある。相談の応対はセンターの最重要機能と位置づけて、相談来館者には親身になった応対をしている。ボランティアマッチング活動は、センターの特質とも言える。

	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
相談件数	139 件	227 件	472 件	554 件	**624 件**	113%
マッチング件数	11 件	49 件	54 件	62 件	**71 件**	115%

（２）ボランティアマッチング活動

・ボランティアマッチング活動とは、ボランティアをしたい人とボランティアさんを探している人を懇切丁寧な対応でマッチング（縁結び）する作業のことであり、メイン・ミッションである。

・ボランティア情報サイトに蓄積されている個人ボランティア情報やスタッフの人脈を駆使し、マッチング作業を行った。また人だけでなく、物、お金のマッチッグを行ってきた。

・一層、活発にするには、ボランティアの受け皿と個人登録ボランティア(人材バンク)の掘り起こしをしていく必要性がある。参考までに代表的なマッチング実績を掲載する。

ボランティアマッチング事例

日 時	対 象	要 望	実 施 結 果
4月1日	人	・寿楽会(老人会)を立ち上げたい、設立総会の講師を紹介して欲しい(会長)	・ヘルスメイトのメンバーを紹介した。
4月12日	金	・預金箱のお金をボランティア関係の団体に寄付したい。(個人)	・刈谷市社会福祉協議会に寄付することにした。
8月9日	人	・夏休み中に2件ボランティアしなくてはならないので紹介して欲しい。(学生)	・ひかりのバザーを紹介して一緒に行った。
1月10日	物	・寮を壊すので不用品がでるが有効活用できないか. (企業)	・団体に聞き込み調査をして有効活用した。

３.各種講座の開催

（１）車座集会（年間5回開催　18：00～19：30）

ボランティア活動に造詣の深い方々をゲスト講師として招待し、刈谷でボランティア活動、市民活動をされている皆さんが、車座になって意見交換をする会を設けた。それぞれテーマを選び、計画通り5回開催した。毎回、定員（20名）を超えるほどの盛況であった。

① 第20回 「地域と共生する、豊田自動織機の社会貢献活動」
と　き：平成19年4月21日（土）　参加者：24名
講　師：（株）豊田自動織機　総務部ハートフルグループ　課長　熱田茂樹氏

② 第21回 「チャレンジという種を蒔けば、才能という花が咲く」
と　き：平成19年4月25日（土）　参加者：31名
講　師：車いすバスケットボール全日本女子
キャプテン　髙林 美香氏

第21回　高林美香さんをお迎えして

③ 第22回 「ひっかかっている言葉・忘れない出会いー私の体験」
と　き：平成19年7月7日（土）　参加者：20名
講　師：(財)アジア保健研修所（AHI）
事務局長　林 かぐみ氏

④ 第23回 「共に生きる！共に育つ！」
と　き：平成19年9月29日（土）　参加者：27名
講　師：(社福)ひかりのさとのぞみの家
初代施設長　皿井 壽子氏

第23回　皿井壽子さんをお迎えして

⑤ 第24回 「移動サービスの現状と今後」
と　き：平成19年10月27日（土）　参加者：18名
講　師：(特非)ボランタリーネーバーズ
事務次長　岩尾憲治氏

（２）スキルアップ講座

登録団体の中には、イベントのネタ不足や団体運営に行き詰っている団体を見受けますが、一層活発な活動をしていただくために、各種活動メニューや知識の向上のためにスキルアップ講座を開催した。開催回数は計画（5回）を上回り6回開催した。

① 第 16 回 「海外ボランティアの現場・南アフリカの小さな国での体験記 ディピー！ジンバブエ」

青年海外協力隊・土木エンジニアーとして、ジンバブエで 2 年間活動してきた「深谷友和（刈谷市在住）さんに、アフリカでの暮らしぶり、音楽や文化、大自然、現地でのふれあい、また青年海外協力隊についてお話頂きボランティアの真髄を習得してもらった。

と　き：平成 19 年 5 月 26 日（土）
講　師：深谷　友和さん
参加者：29 名

講座のあとジンバブエの料理を試食！

② 第 17 回 「夏・親子で竹細工にチャレンジ！水鉄砲的あて合戦！」

青少年育成のためのシンメニューを紹介することを目的に開催した。講師には清水敏和さん（刈谷おもちゃ病院の副院長）お招きし、22 人の親子が竹細工で作った水鉄砲を作成し、水鉄砲的あて合戦を行った。物づくりの楽しさを知り、親子の会話が飛び交う活気のあるイベントであった。

と　き：平成 19 年 8 月 1 日（木）
講　師：清水 敏和さん（刈谷おもちゃ病院の副院長）
参加者：22 名

水鉄砲的あて合戦で楽しむ子どもたち！

③ 第 18 回 「護身術体験教室　護身術で身を守り、心を磨こう！」

デンソーハートフルクラブ元・代表世話人で、（財）少林寺拳法連盟刈谷南支部長の米田正寛さんを講師にお招きした。護身術として優れている少林寺拳法の技を掛け合いながら、自分を守る方法や心構え、そしてボランティア精神の講義をして頂いた。夏休みということもあり、大勢の親子が参加された。

と　き：平成 19 年 8 月 25 日（土）午前・午後 2 回
講　師：米田 正寛さん（（財）少林寺拳法連盟刈谷南支部長）
参加者：37 名

④ 第 19 回 「しめ縄をいっしょにつくりませんか！」

支援センターの年中行事になりつつある、しめ縄作り講座である。昨年と同じく講師に、「ふれあい広場　幸」の西村あき子さん、個人登録ボランティアの前田幸汪さんにお願いした。今年は、小規模作業所「かきつばたワークス」が自主製品にしようと、興味津々であった。

と　き：平成 19 年 12 月 5 日（水）
講　師：西村　あき子さん、前田　幸汪さん
参加者：15 名

⑤ 第 20 回「二宮金次郎の生き方からボランティアを学ぶ」

社団法人愛知報徳会常務理事の尾島輝雄さんをお呼びして開催。人のために役立つことを信念とした二宮金次郎の生き方を聞いて、現代の暮らしを心豊かに過ごす知恵を学んだ。

と　　き：平成 20 年 1 月 26 日（土）
講　師：尾島輝雄さん（社団法人愛知報徳会常務理事）
参加者：34 名

⑥ 第 21 回 「アジアの子どもたちに絵本を贈ろう！身近にできる国際協力活動にふれる」

社団法人シャンティ国際ボランティアの会の協力を得て開催した。絵本を手にしたことのない子どもたちに、各国語の翻訳シールを貼って、カンボジア、アフガニスタン、ラオスなどに贈る活動である。来年も是非、参加したいとの声が多く聞かれた。

と　　き：平成 20 年 2 月 20 日(水)・21 日（木）・23 日（土）3回開催
参加者：38 名

（３）特別イベント

計画外で次の二つのイベントを開催し事業を充実させた。

①「遊防災（あそぼうさい）」

当団体のミッションである防災についてイベントを開催した。刈谷赤十字奉仕団、刈谷市防災室、（株）デンソーユニティの協力で行い、内容は、ハイゼックス米作りと試食、簡易トイレの展示、起震車体験、防災カルタ大会などで、楽しく、実践的な内容であった。子ども、熟年層など日頃防災訓練とは縁の遠い人たちの参加があった点が、センターが行った大きなメリットがあった。また防災室や刈谷赤十字奉仕団との連携ができたのも大きな晃がであった。

と　　き：平成 20 年 2 月 3 日（日）
参加者：70 名

防災カルタとり風景

②中学生体験ボランティア受入

朝日中学のボランティア体験教室を今年も引き受けた。33 名が 4 日間に分かれてこられた。清掃活動、ワークショップ、一起会のメンバーと一緒に使用済み切手の整理を行った。生徒達にボランティアについての理解が得られたことがアンケート結果より見られた。

と　　き：平成 20 年 2 月 12 日（火）15 日(金)19 日（火）22 日（金）
参加者：33 名

熱心に活動している朝日中学生

（4） 情報の発信

① 情報誌「ぼらっち。」(4回発行)
紙媒体を使ってのボランティア情報の発信も行った。情報誌「ぼらっち。」を年に4回発行した。特集記事の内訳は、「刈谷病院の地域理解への試み」、「企業の地域共生の道」、「和太鼓衆　悟空」、「地域を支えるボランティア」であった。また、センター内でのイベント報告、ボランティア・イベント情報の一括掲載、センタースタッフのコラムなどを掲載し、情報の循環を図った。また、HP上、PDF形式で収納し、どこからでもダウンロードが行えるよう便宜を図っている。

② メールマガジン(14回発行　臨時増刊号含む)
刈谷市民ボランティア活動支援センターメールマガジンは、刈谷市内のボランティア・市民活動の最新ニュースを中心に、センターのイベント情報、センターの出来事、ボランティアにまつわるコラムなどの情報を提供した。また、送信したメルマガをホームページにアップデートし、HP上でもメルマガのバックナンバーを閲覧できるよう配慮している。

③ ボランティア情報サイト活用
ボランティア募集団体が自宅から応募でき、また参加する市民も自宅から応募できる、大変便利なインターネットでのボランティア情報サイトであり、その活用の浸透を図ってきた。
ボランティア情報サイト導入している他のセンターに比較すると利用度は高いが、一層の利用拡大が課題である。

Ⅲ. 平成20年度の課題

（1） 「市民から頼りにされるセンター、愛知ネットでなくては！」と言われるようなセンターの構築

① 5周年を意識した事業活動、＋αの活動

（2） 環境（団塊の世代、市民共存協働）を意識した活動

①「団塊の世代」を意識した活動

② 刈谷市民共存協働の活性化を意識した活動

（3） 継続課題の推進　目標値をもったセンター機能

① 情報サイトの利用拡大
登録団体に対して、根気よく操作説明や利用価値の周知を図っていく。特に、事務局には、情報掲載、ギャラリー作成について浸透を図る。

② 団体加入の促進
登録団体 110%アップ(280 団体登録)目標に、新規団体加入に積極的にアプローチしていく必要がある。これからは、学生中心の若年層、団塊の世代の男性の力をボランティア活動等に生かしていくことが必要不可欠であり、個人登録(人材バンク)も積極的に進める。

③ 登録団体のネットワーク化
市民のボランティア意識の向上とネットワークの構築を目的に、開催してきた車座集会とスキルアップ講座といった集客イベントを引き続き開催すると共に、分野別など登録団体同士(横のネットワーク)のつながりが深まるような活動をしていきたい。

④ マッチング活動の積極的推進

ボランティアをやってほしい人とやってくれる人の架け橋になる相談業務が大きな役割であるが、キメ細かい、懇切丁寧な応対を積極的に継続推進する。人、物、金のマッチングを図っていく。

⑤ 市民に頼りにされる赤ちょうちんのセンターへ

市民が気軽に立ち寄れるセンター、多くの市民からセンターは必要不可欠と言われるようなセンターを目指し、スタッフ全員がボランティアコーディネーターとしての能力向上を図る。

（4） スタッフのスキルアップ

平常時のコーディネーター･災害時のコーディネーター能力の向上

･センター内自主研修会
･定例スタッフミーティング等にて

各自の自己啓発(講習会･研修会参画)

安城市民活動センター（愛称：わくわくセンター）

センター外観

センターの概要

場　　所：安城市大山町１－７－１
電　　話：0566－71－0601
フ ァ ク ス：0566－71－0668
E － ｍａｉｌ：center@katch.ne.jp
U　R　L：http：//www.katch.ne.jp/~center/
開 館 時 間：９時～２１時
休　館　日：毎週月曜日（但し、月曜日が祝日の場合は直後の休みでないが休館。）及び、
　　年末年始（１２月２８日～１月４日）
主 な 施 設：交流スペース、作業スペース、情報スペース、ロッカー、障がい者用トイレ、駐車場
使 用 料 金：コピー料金は実費負担、印刷機は無料。但し用紙は利用者が持参。その他の施設は無料
交流スペース：登録団体が打合せの場として利用。テーブル２セット、各椅子６脚
作業スペース：印刷機・紙折機・裁断機・丁合機・製本機・電動ホチキス・ラミネータを設置
情報スペース：インターネット閲覧可能なパソコン１台、カラープリンター、ちらしラックを設置
ロ ッ カ ー：活動に必要な備品などを保管する場所として利用。（ロッカー数は、３６個）
貸 出 し 備 品：プロジェクター、スクリーン、ノートパソコン２台
そ　の　他：コピー機

Ⅰ．センターの役割と任務

１．委託業務名・目的

（1）業　務　名：安城市民活動センター管理運営委託
（2）事 業 の 目 的：様々な分野で活躍する市民ボランティア活動団体を支援するとともに、活動に対する市民の意識啓発を図り、市民ボランティア活動を推進する
（3）実 施 期 間：平成 19 年 4 月 1 日(土)～平成 20 年 3 月 31 日(土)

２．市民活動センターの任務

（１）情報の収集・提供業務

①地域コミュニティ支援サイト（あんじょう市民活動情報サイト）の管理運営
（登録団体の入力作業、イベント情報・ボランティア募集等のコーディネート業務、情報サイト利用操作説明など）
②わくわくセンターのＨＰ作成及び維持管理
③メールマガジン、ぼらりん（情報誌）等の発行
④各種団体の情報を掲示
⑤メディア（新聞・安城ホームニュースわくわく便り等）への情報掲載。

（２）活動場所の提供業務

①ミーティングルームの予約受付、貸出し機材等の利用申し込み対応
②印刷機、紙折機、丁合機、製本機、電動ホチキス等の作業設備利用に関する、受付と管理
③インターネット接続パソコンの利用申し込み対応
④市民活動運営に関わる、問題、課題の相談受付対応
⑤ロッカー貸出し利用、給湯室利用、湯のみ、コーヒカップ貸出し等の対応

（３）意識啓発・普及業務

①情報サイトの説明会、施設めぐり、視察者等の対応
②社会福祉協議会、生涯学習課との連携
③市内公民館への広報、ＰＲ

（４）人材育成・交流業務

①スキルアップ講座等の人材育成に関する研修会の企画･運営
②ＮＰＯ･市民ボランティア活動、まちづくり等に関わるゲストをお呼びし、サロン･交流機会のネットワークづくり

（５）相談・連絡調整業務

①ボランティア、まちづくり等の市民活動の相談窓口として対応し、各種マッチング活動の実施
②ＮＰＯ法人認定取得のための相談対応

Ⅱ．19 年度の実施結果

1. センターの利用実績

（１）登録団体　総登録団体数：２５０団体（H19.3.末時点）

19 年度は 250 団体を目標に活動を展開、結果２５０団体と目標に対して 100％の成果を得た。
（平成 19 年度の実数は 29 団体の登録だが、1団体の削除があり 28 団体となった。）

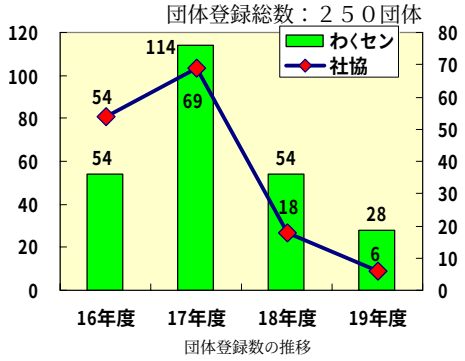
	H16 年度	H17 年度	H18 年度	**H19 年度**	前年比
登 録 団 体 数	５４団体	１１４団体	５２団体	**２８団体**	５３％

（平成１６年度は平成１７年１～３月の実績）

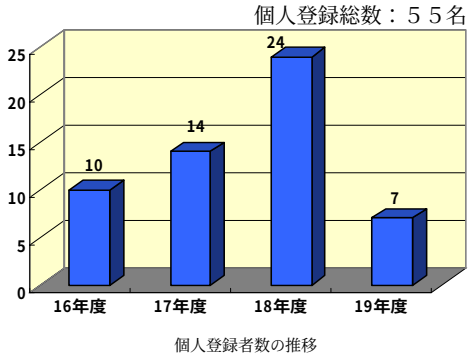
（２）個人登録　総登録者数：５５名（H19.3.末時点）

ボランティア要請に応えるには、多くの個人ボランティアの登録が必要で、その確保が各種のニーズに応えることとなる。登録数は前年比 29％と登録者の伸び悩み。積極的に個人登録へ呼びかけが必要。

	H16 年度	H17 年度	H18 年度	**H19 年度**	前年比
個 人 登 録 者	10 名	14 名	21 名	**７名**	33%



団体登録数の推移



個人登録者数の推移

（３）センターの利用者　来館人員:16，392名(平成17年1月5日から平成20年3月末日まで)

平成17年3月3日、16時15分に、ついに10，000人の来場者数を達成した。主な要因は、登録団体がレストハウス貸館内での活動もカウントしたこと、印刷作業者数の増加にある。

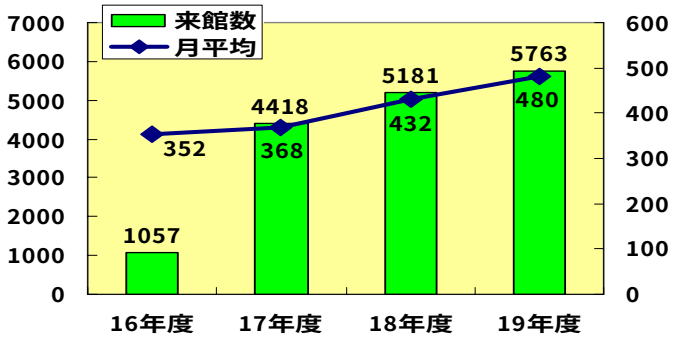
	H16年度	H17年度	H18年度	**H19年度**	前年比
来館者数	1,057名	4,418名	5,181名	**5,836名**	115%
会議人員数	245名	912名	974名	**1,565名**	161%
相談者数	103名	325名	499名	**326名**	65%
印刷作業人数	151名	894名	1,379名	**1,400名**	101%
その他来館者数	558名	2,187名	2,200名	**2,545名**	116%

２．相談機能の向上

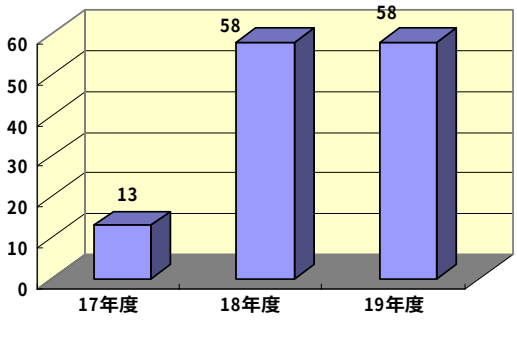
（１）相談・マッチング実績

前年にも増し、相談件数、マッチング件数も増加し一定の成果を得ている。評価尺度の一つと考え、親身な相談対応が更なる幅広いマッチング活動に結びついてゆく。

	H16年度	H17年度	H18年度	**H19年度**	前年比
相談件数	86件	172件	384件	237件	62%
マッチング件数	1件	12件	55件	59件	107%



来館者数の推移



マッチング件数の推移

（2）マッチング活動

安城市民活動センターの重要な役割がマッチングである。ボランティアを含めた各種の依頼に対して、提供側の登録団体、個人に対応し縁結びを行うことである。これにはボランティア情報サイトに蓄積されている個人ボラ情報、スタッフの人脈を駆使して、最善のマッチングに結び付けるよう努めた。

マッチング事例

日時	対象	要望	実施結果
2007/4/10	あんじょう生涯学習まちづくり企画人	子どもまつり）にて、ペンシルバルーンのコーナーを設けたい。	バルーンアートのボランティアをやっている森下照男さんを紹介して、実施の了解を得る。

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

2007/5/15	安城南高等学校	わくわく便りを見たが、ローゼルを育ててみたい。	「自然に学び･ローゼルを育てる会」の高井さんに連絡。50 個の種を渡して、育てるとの事。
2007/6/21	安城青年会議所	グレイシャスビラ　安城さんが七夕短冊の記入イベントに参加したが、本年はどうか。	担当者に連絡し参加の有無を確認したところ、是非参加したいとの事。JC に連絡した。
2007/7/18	市民活動課	流しそうめんを行いたい、竹を切り出すところはないか。	ビカジョカリの榊原さんにお願いをしたところ知り合いの方が竹の切り出しを許可してくれた。
2007/8/28	安城市社会福祉協議会	鹿乗老人クラブの総会で、安笑落語会さんに落語をお願いしたい。	安笑落語会さんに直接連絡調整を取ってもらったところ、実施の了解を得た。
2007/9/11	個人ボラ登録者	夏休み中に子どもに関するボランティアをしてみたい。	めーぷるのお絵かきボラに日程調整し、参加をきめた。
2007/10/2	安城北中先生	中学校の制服を安く分けてくれる団体を教えて欲しい。	社協に問合せ、「えんご会」さんを紹介した。
2007/11/23	岡崎市の金子さん	「ゆびきりげんまん」を詳細に知りたい。手話も習いたい。	代表から金子さんに直接電話され詳細を説明。サークルを見学した。
2008/3/19	NPO 法人えんご会	どんじゃらまつりのイベントで木工体験の指導をしてくれる人はいないか	市民活動課太田さんから、赤松の大工さん紹介してもらえ、喜んでもらえた。

３．各種講座の開催

(１)スキルアップ講座の開催（年４回の開催）

市民活動団体として、身に付けておきたいスキルやノウハウを専門家から直接、指導やアドバイスを受ける機会をつくる。

① 第 10 回　「認知症について学び、地域で支えよう」
　と　き:平成 19 年 6 月 2 日(土)　参加者:31 名
　講　師:キャラバンメイト　横山松男氏

② 第 11 回　「ティッシュペーパークラフト」
　と　き:平成 19 年 8 月 25 日(土)　参加者:22 名
　講師:ボランティア講師　石井喜勝氏

③ 第 12 回　「企業から学ぶ：人づくりの現場を見る」
　と　き:平成 19 年 11 月 30 日(金)　参加者:23 名
　講　師:株式会社デンソー技研センター

④ 第 13 回　「布ぞうりづくりに挑戦」
　と　き:平成 20 年 2 月 29 日(金)　参加者:15 名
　講　師:講　師:藤墳愛子さん、阿部房子さん、汐満房江さん

スキルアップ参加者

H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
８２名	１１２名	**９１名**	※８１％

※決められた募集枠での開催で、参加人員の減少でない。

(２)わくわくサロン　（年６回開催）

ＮＰＯやボランティア、市民活動に関わっている方々をゲストに呼んで、いろいろな体験談や活動についてお話をして頂き、自己の団体の運営のヒントにしてもらう。特にいろいろな分野の第一線で活躍する方と直接議論したり質問を投げかけたりと交流を図ることで、多くの人と人間関係をつくる機会でもある。

① 第 14 回「市民協働の花と緑のまちづくり」

誕生 10 周年、デンパークの新たな取り組みが次からつぎへと、とどめなく打ち出され参加されたみなさんの聴覚に響きました。安城市の誇りと言われる公園への想いがしっかりと伝わりました。

と　　き：平成 19 年 6 月 23 日（土）
講　師：デンパーク常務理事　新井　博文氏
参加者：19 名

② 第 15 回「コミュニティビジネスを探る」

「起業」という言葉の意味、物事を「最初にやる」ことのメリットなど、そして、コミュニティビジネスとして成功している一風変わった団体の話では、葉っぱがお金にみえてくる（！？）「いろどり」、多治見の「コミュニティタクシー」などをご紹介いただきました。

と　　き：平成 20 年 1 月 26 日（土）
講　師：NPO 法人企業支援ネット代表理事　関戸美恵子氏
参加者：18 名

③ 第 16 回「地域を結ぶ、企業のボランティア活動」

日本で最初のトヨタボランティアセンターが開設。その後、阪神淡路大震災が発生、ボラティアとして参加され、その貴重な経験をお話頂いた。
人材の宝庫は企業の最大の強みと鈴木さんは強調。そして、お互いの誠意があれば、人の心を動かすとの言葉は人生の重みを感じました。

と　　き：平成 19 年 10 月 6 日（土）
講　師：トヨタボランティアセンター　鈴木　盈宏氏
参加者：18 名

④ 第 17 回「障がい者の社会参加と喜び」

木造平屋建てアパートの4畳半、6畳二間からがポテトハウスの第一歩とのこと。障がいを持つ人たちは「心までは障がい者ではないです」素直に向き合っていきたいです。参加された人の心に残る言葉でした。

と　　き：平成 19 年 12 月 8 日（土）
講　師：ポテトハウス施設長　黒川　久美子氏
参加者：14 名

⑤ 第 18 回「NPO と地域との協働」

「ＮＰＯ活動と地域の協働」というテーマで皆さんとお話をした。車座になって和気藹々とした雰囲気でお互いの悩みや問題点を打ち明け、充実したわくわくサロンが開催出来ました。

と　　き:平成 20 年 3 月 22 日(土)
講　師:NPO 愛知ネット 理事長 天野　竹行
参加者:12 名

(３)わくわくセンター1 万人記念講演　「宇宙の夢がつくるひとまち」

来場者はまさに老若男女。始めは最先端の宇宙開発の映像に圧倒された会場ですが、話が進むと「夢のあるいい社会を作りたい！」という植松さん思いと小学生にも丁寧に語る優しさが会場に伝わりました。
一万人記念講演にふさわしいわくわくサロンとなった。

と　　き:平成 19 年 5 月 24 日(土)
講　師:NPO 法人北海道宇宙科学技術創成センター
　　理事　植松　努氏
参加者:28 名

わくわくサロン参加者

H17 年度	H18 年度	H19 年度	前年比
119 名	121 名	109 名	90%

４．情報の発信

(１)情報紙「ぼらりん」　（年４回発行）

情報紙「ぼらりん」は年4回(春号、夏号、秋号、冬号)発行をした。毎回特集は各分野で活躍されている人をインタビューして掲載をした。また、ぼらびとリレーインタビューは、活躍している団体代表や面白い発想のイベントを展開している方をインタビューし、それを受けた方が、次々と新しいぼらびとを紹介していくユニークな取材も行って、多くの人に関心を持ってもらうような情報も提供している。

特集のテーマとゲスト

	特集テーマ	特集ゲスト
２００７年春号	デンパークの市民協働のカタチ・ デンパークを中心に広がる花と緑のまちづくり	デンパーク　常務理事 新井　博文さん
２００７年夏号	環境首都をめざして！ 安城市の環境活動を探る～前編～	安城市副市長 山田　朝夫さん
２００７年秋号	環境首都をめざして！ 安城市の環境活動を探る～後編～	エコネットあんじょう会長 神谷　輝幸さん
２００８年冬号	ボランティア活動のはじめの一歩 ～活動を通して街と人が見えてくる～	さくら学園安城生活福祉高等専修学校 岩瀬　せつ子校長先生

ぼらびとリレーインタビュー

	ゲスト	インタビュアー
２００７年春号	サークル＊くるくる代表 川﨑　恵子さん	要約筆記サークルなしばた　代表 田所　千代子さん
２００７年夏号	安城市設置通訳者 天野　由美子さん	サークル＊くるくる代表 川﨑　恵子さん
２００７年秋号	アリの会、安城市民生委員主任児童委員 鈴木登紀子さん	安城市設置通訳者 天野　由美子さん
２００８年冬号	私学を良くする愛知父母懇談会 安城ブロック　加納　好美さん	アリの会、安城市民生委員主任児童委員 鈴木登紀子さん

川﨑　恵子さん

天野由美子さん

鈴木登紀子さん

加納　好美さん

（２）メールマガジンの配信

センターが発行するメールマガジンは市民活動センターの最新ニュースを中心に、イベント情報、センターの出来事、ボランティア活動に関わる助成金情報等を各月初に配信している。ホームページにもアップデートしメールマガジンのバックナンバーを閲覧できるようになっている。

（３）施設内掲示

登録団体や、個人ボランティアの方より作品をお借りして展示している。

５.交流会事業

（１）市民活動団体間交流会の実施

センター開設 3 年目を向かえ、登録団体同士の活動理解、情報交換のため、交流会を催した。

と　　き：平成 20 年 1 月 19 日(土)14：00～16:30
参加団体：31 団体
参加人員：40 名
内　　容：オープニング「こどものバイオリン演奏」
　　名刺づくり、団体マップづくり、抽選会
　　交流会･･･団体紹介、名刺交歓会、懇談等

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

Ⅲ．平成 19 年度のまとめ

（1）わくわくセンターの前年度反省と課題

① 安城市民活動センターの委託運営については、計画通り遂行できた。

② わくわくサロン（年6回）については、年度末までに遂行できたが、ゲスト人選に苦慮した。また、ゲストの決定から開催までの期間に余裕が少なく苦労をした。

③ スキルアップ講座は手づくり講座も含め、年 4 回は計画通り実施できた。出前講座も人気があった。

④ マッチングについては、前年の実績をクリアすることできた。（18 年度：58 件　19 年度：59 件）

⑤ 開設3年目の節目、「次の一手」として登録団体向けに交流会を開催した。初回の開催としては、参加団体 31 団体、参加者 40 名であったが、会場にあった規模で開催できた。

⑥ 機関紙「ぼらりん」春号、夏号、秋号、冬号と計画通り、発行できた。特に表紙については安城の風物をとらえたものにしたことは好感を得た。

⑦ メールマガジン毎月の 1 日に発送、多くの人たちに目を留めてもらった。

Ⅳ．平成 20 年度の課題

1．センターの更なる機能の充実

市民に愛され、たよりにされる市民活動センターとして、安城のまちづくりに寄与してゆく。

（１）重点施策

① 情報サイトの利用拡大を図り、情報の源としての役割を全うし、マッチング活動の推進を図る。登録団体の活動情報を全ての登録団体がサイトに掲載するよう継続実施してゆく。特にギャラリーについては根気良く浸透を図ってゆく。

② 登録団体・来館者それぞれの数値目標を、10%向上におくこと基本姿勢とする。個人登録者はマッチング評価に直接結びつく内容であり積極的にアプローチし、10%以上を目指す。

③ わくわくサロン、スキルアップ講座については、時代の変化、課題を先取りし、世相に合わせたものを取り込んでゆく。（安城としての環境首都・安城の題材は取り入れる。）

（２）継続課題の推進

① わくわくセンターと社会福祉協議会、生涯学習課との連携、協働の継続強化を図ってゆく。
・定期性のある、情報交換のできる機会づくりを行う。

② 効果的対応のため、刈谷、安城の両センター間のネットワーク化の構築を図る。

２．スタッフのスキルアップ

（１）業務のノウハウをマニュアル化してゆく。

（２）自己啓発の場づくり

業務遂行のため、スタッフの自己啓発は不可欠である。（刈谷センターと歩調を合わせ実施。）

・内　容 ： NPO、企業、行政間の協働、平常時のコーディネーター能力の向上、災害時のコーディネーター能力の向上

・方　法 ： NPO 愛知ネットの集合教育の実施

センター内の集合教育（スタッフmtg時、集合教育、見学研修等）の実施
外部研修に個人参加できる環境づくりを行う

Ⅰ．レストハウス事業

1.委託業務名・目的

（1）業　　務　　名：秋葉いこいの広場　レストハウス管理運営委託管理
（2）管 理 に 関 す る 業 務：レストハウス貸し館、テニスコート受付管理
（3）利用者に対するサービス：自主事業の実施
（4）実　　施　　期　　間：平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

Ⅱ．レストハウス事業の実施内容

1．レストハウス主催事業

（1） テニスカップ大会開催

テニス大会の開催は、はじめての取り組みで「手探り」の状態から計画が始まった。審判は「セルフ方式」とし、利用者ならみな顔見知りで、少々のジャッジの甘さはお互いに許しあえることも考慮し、採用の一面となった。
試合形式については、ミックスダブルスの声もあったが、今回は男女のそれぞれのダブルスとした。

と　き：平成 19 年 10 月 28 日(日)9 時～
参加者：48 名(男子 12 チーム、女子 12 チーム)
協　力：秋葉いこいの広場テニスコート利用者
。

2．施設利用状況

（1）利用人数

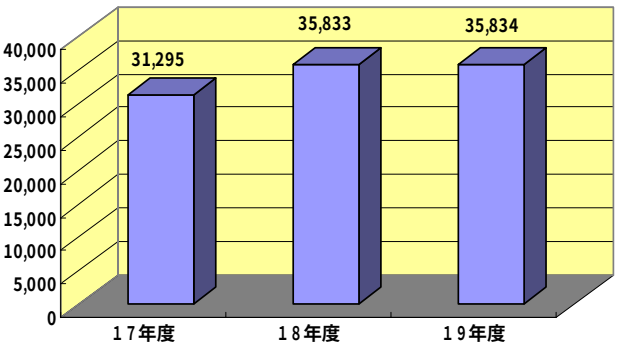
全体では小会議室、テニスの利用者増が全体の人員増の要因となった。

	H17 年度	H18 年度	H19 年度	対前年比	備考
4 月	2,686 人	2,703 人	2,816 人	101%	
5 月	2,273 人	2,686 人	2,882 人	109%	
6 月	2,625 人	3,132 人	3,059 人	102%	多：91%、和：88%
7 月	2,844 人	3,063 人	3,356 人	108%	
8 月	2,354 人	3,312 人	3,225 人	110%	多：83%
9 月	2,896 人	3,212 人	2,997 人	90%	多：69%、和：52%
10 月	2,474 人	3,435 人	2,907 人	94%	多：72%、和：45%
11 月	3,067 人	3,521 人	3,095 人	95%	多：80%、和：30%
12 月	2,399 人	2,740 人	2,805 人	102%	
1 月	2,401 人	2,327 人	2,900 人	101%	
2 月	2,549 人	2,524 人	2,844 人	111%	
3 月	2,727 人	2,968 人	3,144 人	107%	テニス：84%
年間	31,295 人	35,624 人	36,030 人	101%	

利用状況は多目的ホール、小会議室、和室、テニスコート利用人員の総数

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

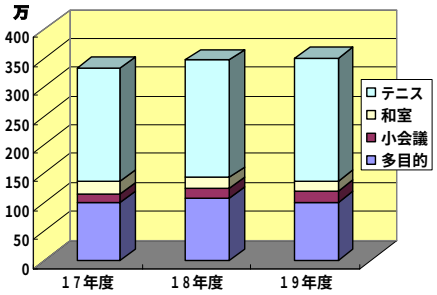


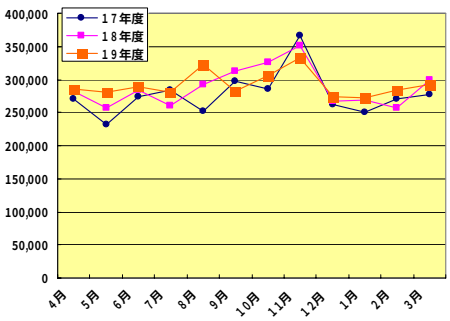
小会議室については、生け花サークルの利用増が挙げられる。

(2) 利用料実績

施設利用料金は、前年に比べ 102%増となった。

	H17 年度	H18 年度	H19 年度	対前年比	備考
4 月	27.0 万円	28.2 万円	28.5 万円	101%	
5 月	23.2 万円	25.8 万円	28.0 万円	109%	
6 月	27.3 万円	28.4 万円	28.9 万円	102%	
7 月	28.4 万円	26.0 万円	28.1 万円	108%	
8 月	25.1 万円	29.2 万円	32.3 万円	110%	
9 月	29.7 万円	31.3 万円	28.2 万円	90%	
10 月	28.5 万円	32.6 万円	30.7 万円	94%	
11 月	36.7 万円	35.0 万円	33.3 万円	95%	
12 月	26.1 万円	26.7 万円	27.3 万円	102%	
1 月	25.1 万円	26.9 万円	27.3 万円	101%	
2 月	26.9 万円	25.7 万円	28.4 万円	111%	
3 月	27.6 万円	29.9 万円	32.1 万円	107%	
年間	332 万円	346 万円	353 万円	102%	





(3) 前年比との比較

多目的ホール	小会議室	和室	テニス	合計
件数:106%	件数:129%	件数: 94%	件数:103%	件数:105%
人員: 96%	人員:122%	人員: 85%	人員:102%	人員:101%
収入: 96%	収入:111%	収入: 94%	収入:105%	収入:102%

施設利用実績、売上げの詳細

平成17年度

	多目的ホール			小会議室			和室			テニスコート				計			
	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額		件数	人員	収入額	累計
4月	45	594	77,880	20	203	11,950	14	98	13,410	236	1,791	167,290		315	2,686	270,530	270,530
5月	38	486	61,490	19	183	11,480	8	22	5,970	220	1,582	153,560		285	2,273	232,500	503,030
6月	58	858	97,480	21	198	12,530	22	181	22,630	197	1,388	140,750		298	2,625	273,390	776,420
7月	55	707	85,080	20	192	14,410	16	192	14,410	261	1,753	170,365		352	2,844	284,265	1,060,685
8月	59	586	62,580	26	252	15,400	16	111	12,750	229	1,405	161,250		330	2,354	251,980	1,312,665
9月	56	798	81,640	28	303	18,350	25	165	23,430	230	1,630	173,760		339	2,896	297,180	1,609,845
10月	87	763	81,480	20	161	11,800	26	186	23,760	216	1,364	168,430		349	2,474	285,470	1,895,315
11月	82	1,024	113,080	25	214	16,000	31	226	27,650	247	1,603	210,110		385	3,067	366,840	2,262,155
12月	74	829	85,430	21	172	11,070	24	213	22,310	176	1,185	143,100		295	2,399	261,910	2,524,065
1月	69	896	69,960	16	142	9,420	20	107	16,340	191	1,256	155,400		296	2,401	251,120	2,775,185
2月	78	900	91,990	20	155	10,930	29	268	26,060	192	1,226	140,990		319	2,549	269,970	3,045,155
3月	88	833	86,910	24	211	12,990	14	144	12,130	235	1,539	164,810		361	2,727	276,840	3,321,995
合計	**789**	**9,274**	**995,000**	**260**	**2,386**	**156,330**	**245**	**1,913**	**220,850**	**2,630**	**17,722**	**1,949,815**		**3,924**	**31,295**	**3,321,995**	

平成18年度

	多目的ホール			小会議室			和室		テニスコート				計				
	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	前年同月比	累計
4月	82	793	89,230	32	340	18,840	14	199	15,180	220	1,371	159,070	348	2,703	282,320	104%	282,320
5月	79	753	85,360	30	267	16,150	20	251	18,840	207	1,415	137,200	336	2,686	257,550	111%	539,870
6月	76	1,061	105,300	23	204	13,630	23	368	22,620	221	1,499	142,830	343	3,132	284,380	104%	824,250
7月	73	930	74,720	28	244	16,590	17	163	13,190	237	1,726	156,200	355	3,063	260,700	92%	1,084,950
8月	74	1,053	75,990	22	204	12,110	19	241	14,490	272	1,814	189,690	387	3,312	292,280	116%	1,377,230
9月	80	1,083	99,720	27	272	14,750	19	314	17,500	238	1,544	180,840	364	3,213	312,810	105%	1,690,040
10月	84	1,176	108,720	27	243	16,480	21	381	20,810	224	1,635	179,920	356	3,435	325,930	114%	2,015,970
11月	91	1,243	103,820	26	235	14,440	22	322	20,280	244	1,721	212,130	383	3,521	350,670	96%	2,366,640
12月	75	903	76,810	23	247	13,800	16	288	12,960	196	1,302	163,680	310	2,740	267,250	102%	2,633,890
1月	76	728	80,480	16	151	9,540	11	123	9,420	213	1,325	169,580	316	2,327	269,020	107%	2,902,910
2月	76	723	76,420	21	168	12,680	13	130	11,090	214	1,503	157,000	324	2,524	257,190	95%	3,160,100
3月	90	870	84,820	25	252	13,560	16	151	13,600	267	1,904	186,960	398	3,177	298,940	108%	3,459,040
合計	**956**	**11,316**	**1,061,390**	**300**	**2,827**	**172,570**	**211**	**2,931**	**189,980**	**2,753**	**18,759**	**2,035,100**	**4,220**	**35,833**	**3,459,040**		

平成19年度

	多目的ホール			小会議室			和室		テニスコート				計				
	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	件数	人員	収入額	前年同月比	累計
4月	83	732	80,730	32	251	14,290	16	151	15,490	251	1,682	174,450	382	2,816	284,960	101%	284,960
5月	83	821	79,820	29	301	14,840	15	151	12,250	239	1,609	173,800	366	2,882	280,710	109%	565,670
6月	73	969	94,770	29	293	14,580	24	325	21,560	230	1,472	157,780	356	3,059	288,690	102%	854,360
7月	108	1,093	88,260	29	391	15,100	20	248	16,640	230	1,624	161,070	387	3,356	281,070	108%	1,135,430
8月	84	883	91,250	34	288	17,230	18	257	18,850	281	1,797	195,580	417	3,225	322,910	110%	1,458,340
9月	80	744	68,640	37	301	17,370	17	163	12,990	247	1,789	183,380	381	2,997	282,380	90%	1,740,720
10月	79	852	88,220	34	264	17,210	11	175	10,760	224	1,615	190,420	348	2,907	306,610	94%	2,047,330
11月	69	993	84,040	27	218	12,770	9	99	7,950	263	1,785	228,480	368	3,095	333,240	95%	2,380,570
12月	71	916	76,930	32	231	15,340	17	190	14,330	216	1,468	166,860	336	2,805	273,460	102%	2,654,030
1月	87	880	73,940	40	312	20,890	18	275	13,630	204	1,433	164,360	349	2,900	272,820	101%	2,926,850
2月	95	947	87,550	30	280	15,830	17	210	15,440	208	1,407	165,610	350	2,844	284,430	111%	3,211,280
3月	104	987	104,650	33	323	16,790	17	238	19,240	253	1,596	180,340	407	3,144	321,020	107%	3,532,300
合計	**1,016**	**10,817**	**1,018,800**	**386**	**3,453**	**192,240**	**199**	**2,482**	**179,130**	**2,846**	**19,278**	**2,142,130**	**4,447**	**36,030**	**3,532,300**		

NPO愛知ネット　活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

■まちづくり

Town planning

「いっつもトーク電話通訳」事業は、安城更生病院、刈谷市生活安全課、トヨタ記念病院と定常的に通訳を提供している。翻訳の依頼も、三好町の広報誌ばかりではなく、各戸に配布するごみ処理のパンフレットの中国語、韓国語、ポルトガル語版の翻訳も引き受けられるようになった。

株式会社ＴＦａｓ（旧東海銀行の子会社で、UFJ 関連のその他業務を請け負っている会社）から、いっつもトークについて営業提携の話しが持ち上がっている。いっつもトークの営業力不足を補うために、ＴＦａｓ社との提携話しを進めることにした。

また、島根県国際交流協会から、電話通訳に関する相談があり、いっつもトークの講演依頼をうけた。島根県では、広範な地域の通訳事情に対応するため、電話通訳を検討している。NPO 愛知ネットしても、災害時協力を念頭に置いて、島根県国際交流協会の電話通訳事業を支援することにした。

●いっつもトーク電話通訳を利用するためのツール

●島根県国際交流協会での電話通訳演習の模様

A:いっつもトーク事業展開：	多言語通訳センター運営	平成19年　4月～20年3月
	豊田市役所からの依頼ポルトガル語労働相談会通訳提供	平成19年　6月（不成立）
	聖路加看護大学との連携：中国語電話通訳を試行	平成19年10月～12月
	情報バリアフリー協議会委託ポルトガル語観光案内通訳試行	平成19年11月
B:いっつもトーク営業展開：	県内の各病院を営業訪問（鈴木、兪君）	平成19年　4月～5月
	三好町子育て支援課から問い合わせ、訪問	平成19年　8月27日
	株式会社 TFaSと営業連携の交渉を開始する	平成19年12月～
	三好町国際交流協会から問い合わせ、訪問→成約	平成20年　3月26日
C:いっつもトーク翻訳事業：	三好町広報誌ポルトガル語・英語版	平成19年　3月～
	三河安城クリニック問診票ポルトガル語翻訳	平成19年　3月～
	情報バリアフリー協議会以来韓国語、中国語、ポルトガル語翻訳	平成19年　9月
	三好町広報情報課中国語、ポルトガル語ごみパンフレット翻訳	平成19年10月
	聖路加看護大学医療アンケートポルトガル語翻訳	平成19年12月
D:いっつもトーク広報事業：	京都市国際交流協会からの視察を受け入れる	平成19年　5月10日
	島根県国際交流協会からの要請で多言語通訳グループを説明	平成20年　2月15、16日

■企業との協働

株式会社デンソーから委託を受け、以下のイベントを企画･運営した。

１．リユースパソコン寄贈プログラム交流会

昨年度に引き続き、株式会社デンソーおよびデンソーグループ各社が提供するリユースパソコン寄贈プログラムの寄贈先の調査･選定を受託し、実施した。さらに本年度は、寄贈先の各団体とデンソーグループ各社との交流会の企画･運営を受託し、次のような日程で交流会を開催した。

9月　7日　　愛知会場（デンソー太陽の家）

9月11日　　長野会場（GAC穂高工場）

9月21日　　静岡会場（アスモ、浜名湖デンソー）

9月28日　　三重会場（デンソー大安工場）

寄贈を受けた各団体からは、感謝の声が多く寄せられた。交流会に参加した各団体からは、企業との協働の重要性を認識することができたとの声を聞くことができた。

●RePC交流会愛知会場に集まった団体

●RePC交流会三重会場での様子

２．ＤＥＣＯスクール企画運営

株式会社デンソーが環境月間の取り組みとして、地球温暖化防止をテーマに「できるエコ！DECO スクール」を開催した。このデコスクールの企画･運営をデンソーから受託し、デンソーと協働して、次のように開催した。

6月11日　刈谷キャンパス（産業振興センター）

6月17日　名古屋キャンパス（トヨタ産業技術記念館）

6月24日　岡崎キャンパス（愛知県青年の家）

各キャンパス（会場）とも、話題となっている「不都合な真実」を上映した。名古屋キャンパス、岡崎キャンパスでは、映画上映のほかに、「あなたにもできるエコシフト！」と題するセミナーを開催したり、科学実験教室、環境ポスター展などを開催した。3会場とも、多くの運営ボランティアの協力をいただき、無事に運営することができた。

●DECOスクールで「不都合な真実」を上映

●あなたにもできるエコシフト！セミナー

●科学実験教室に興味津々のこどもたち

●環境ポスター展にはたくさんの絵が

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

しんぶん@ネット　発信中

中日新聞【10】　2007 年 12 月 25 日

「すべての活動は、災害時の情報のために」。情報を使った災害救援を目的に活動する特定非営利活動法人･NPO 愛知ネット（愛知県安城市）のホームページ（HP）では、全国の防災、災害情報が集まっている。

「情報は〝鮮度〟が命。人が手をかければ、それだけ時間がかかる」と管理者の大野裕史事務局長（五五）。刻一刻と更新される「防災ニュース･地震情報」のコーナーは、大災害の情報から防災訓練までさまざまな防災情報を紹介。防災関係のキーワードが含まれるネット上のニュースが自動的に掲載され、日本のどこかで大災害があると、ページの閲覧数は十倍近くに急増する。

愛知ネットの一番の目的は、災害時にボランティアと被災者をつなぐこと。被災地の情報をどれだけ早く他地域に届けるかで復興の時間が変わってくるという。地元で大災害があれば別ページが開設され、被害状況や被災者が求めていることを全国へ発信する。

大野事務局長は「テレビの映像だけでなく、確かな情報をつかんでボランティア活動をしてほしい。そのためには、HP が有効」と力を込める。（宇佐美尚）

企業探検隊　中小企業を見直す

名古屋大 2 年　佐野 文香さん　　中日新聞【15】2007 年 4 月 24 日

民間非営利団体（NPO)愛知ネットが主催した「企業探検隊」に昨冬、参加し九つの中小企業を訪問した。企業探検隊とは、学生が数人のグループで、企業訪問し、社長からじかに話を聞いたり、会社を見学したりするという企画だ。

企業探検隊に参加するまで、中小企業への関心は低く、将来的にも自分には関係のない世界だと思っていた。中小企業は大企業の下請けで、単一的仕事の印象があって、あまり魅力を感じてはいなかった。

廃棄物の解体からリサイクルまで請け負っている会社へ訪問した時、現場を見て驚いた。建物を解体して出たコンクリートや木材、ガラスなどの中に雑誌、ペットボトル、家電が交じっている。本来は分別すべきものが、そのまま持ち込まれていた。それを社員が手作業で分けている。地道な作業。肉体的にも精神的にもつらそうに感じた。

しかし、社長が、環境にやさしい「循環型地域社会」をつくりたいという夢について語るのを聞いて、考えが変わった。夢実現への一歩と考えると単純作業も意味のあるものとなる。仕事のやりがいや楽しさは、内容ではなく、どれだけの夢を持てるかだと思った。

業種の異なる企業を訪問し、思ったことは、中小企業の仕事はとてもクリエーティブで、魅力的なものということだ。それぞれのカラーを持ち、常に向上しようとする姿勢が感じられた。

自分の目で本当の姿を知ることの大切さを学び、これまで一部の大企業だけを意識してきた私の視野は広がった。企業探検隊は、貴重な体験となった。

ネットを使い情報提供

中日新聞【27】2007 年 10 月 1 日(月)

情報提供を通じた災害救援を目指して発足し、八年になった。天野竹行理事長（四二）は「多くの人に情報を提供することが大きな力につながる」と力を込める。

設立のきっかけは一九九八年、阪神大震災の経験者との出会い。大きな災害になればなるほど被災地に情報が届かないこと、情報伝達を担う人間がいないことを知った。仲間数人と「それなら、少し手伝おうか」と、パソコンを使った活動を始めた。

「一番気になるのは家族の安否」との考えから、「あんぴメール」システムを導入。地震発生時に、居場所やけがの有無などを入力して返信すると、あらかじめ設定しておいた登録者家族や所属する組織へ情報が送信される仕組みだ。

さらに登録者が周辺の被害状況を写真と文字で伝えられる。近くにある電柱の管理番号を入力して送信すれば、パソコンの地図上に被害状況が表示される。

「公務員であれば、登庁する間に被害調査が可能。災害時の体制を撃える時間が短縮できる」という。普段は登録者に気象情報などを送っており、自治体や地元企業など約五十団体、数千人が加入している。

インターネットの発達で情報発信する人も増えたため、最近は災害救援とともに防災にも力を入れている。「地域のつながりが復興の要。それぞれの団体をネットワーク化したほうが、いざというときにも力を発揮する」と、二〇〇五年一月、安城市大山町に市民活動センターを開いた。

地元で地震が起きた時には、センターがボランティア活動の拠点になる。災害時に役立つ知識を楽しみながら身につけてもらうため、防災キャンプも開いて参加者にロープワークや救命救急、飯ごう炊さんなどを体験してもらっている。

天野理事長は「NPO 最大の強みは住民とのつながり。災害時には住民からできる限りの情報を集め、必要とする場所に届けられる存在になりたい」と語った。（安城通信局・宇佐美尚）

福祉関係者が講演　刈谷のボランティア支援センターで集会

中日新聞　2007 年 10 月 2 日

刈谷市寿町の市民ボランティア活動支援センターで、車座集会が開かれ、ボランティアや市民グループのメンバーが福祉関係者の講演などを聞いた。

講師には、大府市の社会福祉法人愛光園の理事で、四十年以上、重度障害の人々を支てきた皿井寿子さんを招き、二十五人が参加した。

皿井さんは一九六五（昭和四十）年に、重度障害の子どもたちが通園する施設を始めた。授産施設やデイサービスセンターなども整備するなど精力的に活動、「普通の子どもとして受け止め、一緒に喜んだりしつけたりして接していくと、抑えられていた(成長の）芽が伸びてくるなどと強調した。車座集会は二ヶ月に一回程度開催、今回は一日に四周年を迎えた支援瀬インターの記念行事として開かれた。

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

しんぶん@ネット　発信中

中日新聞　2007 年 10 月 2 日

愛知県刈谷市の市民グループや民間非営利団体（NPO）が登録する「刈谷市民ボランティア活動支援センター」。センター長の牧野清光さん（六四）は「ボランティアをする側と受ける側の懸け橋に」と使いやすさを心がけ、二〇〇三年の開設当初から「情報サイト」で登録団体の活動をきめ細やかに紹介している。

登録団体は開設当初の六十三からほぼ四倍の二百四十一に増えた。福祉関連の団体が多いが、商店街や企業内ボランティアサークルも参加。サイト上ですべての団体の活動内容や最新のイベント情報を調べることができ、各種イベントへの参加もサイト上で申し込めるのが特徴。個人会員の場合、自由な時間に申し込みができ、参加の可否はメールで本人に届く。

サイトをきっかけに活動に参加した市民が、自分の地域で新しい団体を発足させる例も出てきた。牧野さんは「ボランティアやまちづくりなどへの市民意識は高まっている。市民が自立して活動できるよう、ほんの少し背中を押してあげられるような場になればいいですね」と話している。（吉田幸雄）

2007年(平成19年)10月2日(火曜日)
しんぶん@ネット
発信中
「刈谷市民ボランティア活動支援センター」
愛知県刈谷市
牧野清光 センター長

◇絵本作り　絵本の森・ぽえ夢は、6、13の両日に岡崎市美合町の県青年の家で開く絵本作りの参加者を募っている。講師は、手作り絵本作家の夏目理知子さん。対象は県内在住の5歳から中学生まで。定員は各日50人。参加無料。㊐県青年の家＝電０５６４（５１）２１２３

中日新聞　2007 年 10 月 2 日　愛知県青年の家

◇絵本作り　絵本の森・ぽえ夢は、6、13 の両日に岡崎市美合町の県青年の家で開く絵本作りの参加者を募っている。講師は、手作り絵本作家の夏目理知子さん。対象は県内在住の 5 歳から中学生まで。定員は各日 50 人。参加無料。県青年の家＝電 0564（51）2123

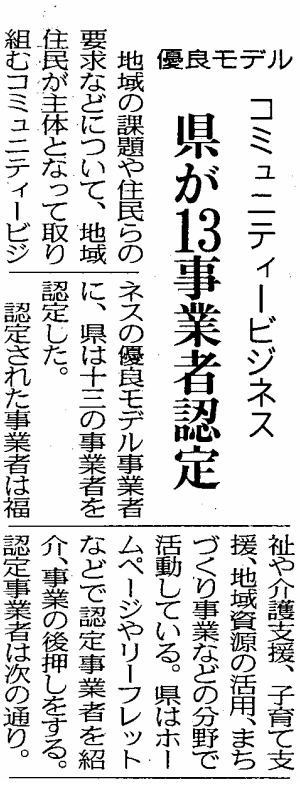
コミュニティービジネス 県が 13 事業者認定

中日新聞　2008 年 2 月 4 月

地域の課題や住民らの要求などについて、地域住民がま体となって取り組むコミュニティーピジネスの優良モデル事業者に、県は十三の事業者を認定した。

認定された事業者は福祉や介護支援、子育て支援、地域資源の活用、まちづくり事業などの分野で活動している。県はホームページやリーフレットなどで認定事業者を紹介、事業の後押しをする。認定事業者は次の通り。

▽まちづくり　NPO 法人 NPO 愛知ネット（安城市）オフィス・マッチング・モウル（岡崎市）▽子育て支援　NPO 法人 NPO ママネット（西尾市）NPO 法人おやこでのびっこ安城（安城市）▽地域資源活用大人の郷（豊根称）立田ふれあいの望遠営連絡協議会（愛西市）ふる里（豊橋市）▽福祉・介護支援 NPO 法人絆（東浦町）NPO 法人すけっとファミリー（名古屋市瑞穂区）NPO 法人ゆいの会（知多市）NPO 法人りんりん（半田市）NPO 法人かた〜ら（刈谷市）NPO 法人だいこんの花（知多市）


優良モデル
コミュニティービジネス
県が13事業者認定
地域の課題や住民らの要求などについて、地域住民が主体となって取り組むコミュニティービジネスの優良モデル事業者に、県は十三の事業者を認定した。
認定された事業者は福祉や介護支援、子育て支援、地域資源の活用、まちづくり事業などの分野で活動している。県はホームページやリーフレットなどで認定事業者を紹介、事業の後押しをする。認定事業者は次の通り。

市民団体間の連携へ交流会　安城で初めて　中日新聞【１７】2008 年 1 月 20 日

安城市の市民団体同士の連携を図る新春交流会が十九日、同市大山町の市民活動センターであった。 センターに登録するのは現在約二百五十団体。センターが市民活動の拠点として徐々に浸透する一方で、団体間の連携はは、なかなか広がらないという。今回はお互いの活動を知り、新たな活動につなげようと初めての交流会を開いた。

会場には聾者ボランティアや防災、地域づくりなど計二十九団体の四十六人が集合。団体の活動を発表しあったり、お茶を飲みながら情報交換をしたりして交流を深めた。簡単な活動内容や近々開催する催しなどを記入した紙を、大きな地図に張り付けた市民活動マップも作製した。

2008年1月20日（日曜日）
中日新聞【17】
市民団体間の連携へ交流会
～安城で初めて～

“三位一体”で向上　岡崎で 60 人交流　中日新聞【22】2008 年 3 月 1 日

NPO 愛知ネット（安城市）の NPO 交歓会が二十九日、岡崎市美合町の県青年の家で開かれた。県内外の NPO、行政、企業から関係者約六十人が参加して意見を交換し、交流を深めた。（中野祐紀）

国際協力機構（JICA）国際協力人材部の鵜尾雅隆さんは、海外の NPO の活動などについて講演。続いて、参加者たちは「人を活（い）かすボランティアマネージメントについて」をテーマにパネルディスカッションした。

NPO 団体や岡崎市、県、企業のボランティアを推進する部門の代表者が、それぞれの立場から発言。効果的にボランティア活動を運営することを目指し、時には対立した意見を戦わせながら積極的に議論した。

NPO 愛知ネットの大野裕史事務局長によると、かつて行政や企業に対して権利や資金などを要求し、獲得するのが市民活動の形だったという。「今回のような交歓会の開催は、対決する相手から手を取り合うパートナーへという意識改革の証拠」と喜んだ。

最後に、一緒に夕食を食べる交流会もあり、参加者らは和やかな雰囲気で懇談した。

新聞　2008年（平成20年）3月1日（土曜日）　西三河　（22）

ボランティア活動

“三位一体”で向上へ

NPO愛知ネット（安城市）のNPO交歓会が二十九日、岡崎市美合町の県青年の家で開かれた。県内外のNPO、行政、企業から関係者約六十人が参加して意見を交換し、交流を深めた。（中野祐紀）

国際協力機構（JICA）国際協力人材部の鵜尾雅隆さんは、海外のNPOの活動などについて講演。続いて、参加者たちは「人を活（い）かすボランティアマネージメントについて」をテーマにパネルディスカッションした。

NPO団体や岡崎市、県、企業のボランティアを推進する部門の代表者が、それぞれの立場から発言。効果的にボランティア活動を運営することを目指し、時には対立した意見を戦わせながら積極的に議論した。

NPO愛知ネットの大野裕史事務局長によると、かつて行政や企業に対して権利や資金などを要求し、獲得するのが市民活動の形だったという。「今回のような交歓会の開催は、対決する相手から手を取り合うパートナーへという意識改革の証拠」と喜んだ。

最後に、一緒に夕食を食べる交流会もあり、参加者らは和やかな雰囲気で懇談した。

活発な議論が交わされたパネルディスカッション＝岡崎市の県青年の家で

NPO　行政　企業

岡崎で60人交流

西三河版

ひなまつり②
小島　綾子
オリジン会

ニュース、情報は下記へ
社　会　部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp
岡崎支局　〒444-0863
岡崎市東明大寺町116－18
0564-22-1661　Fax25-1554
豊田支局　〒471-0849
豊田市美山町３－34－34
0565-24-1010　Fax25-1118
安城通信局
0566-76-3355　Fax76-0900
西尾通信局
0563-56-3135　Fax56-3136
刈谷通信局
0566-21-0077　Fax26-0285
碧南通信局
0566-41-0468　Fax43-1047
足助通信部　連絡先・豊田支局
豊橋総局
0532-52-7181　Fax54-4655
中日新聞への御意見は
読者センターへ
052-221-0800　Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
広告のお申し込みは
広告局三河アドセンターへ

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

団体間の連携深める　交流会に約４０人参加　安城ホームニュース 2008 年 2 月 9 日

大山町の市民活動センター（わくわくセンター）で「新春交流会」が開かれ、約 30 団体の代表ら 40 人ほどが参加して親ぼくを深めました。

各ボランティアなど市民活動のサポート拠点として 3 年前に開設された同センター。現在は 244 団体、53 個人などが登録（1 月現在）。これまで団体間の連携があまりなかったため、横のつながりを強めてもらおうと企画されました。

交流会では同センターで毎月 2 回ほど練習に励む東京コンセルバトワールの子どもたち 9 人が、バイオリン演奏を披露。その後は和やかな雰囲気の中、参加者同士が名刺を交換しながら歓談。活動マップ作りやプロジェクターを使って各団体の紹介なども行われました。

同センター長の野村剛生（かねたか）さんは「それぞれの活動からワンステップ進んでつながってもらえれば。交流会はきっかけとして、その一歩になったと思います。できれば今後も続けていきたい」と話していました。

団体間の連携深める

わくわくセンター交流会に約40人参加

大山町の市民活動センター（わくわくセンター）で「新春交流会」が開かれ、約30団体の代表ら40人ほどが参加して親ぼくを深めました。

各ボランティアなど市民活動のサポート拠点として3年前に開設された同センター。現在は244団体、53個人などが登録（1月現在）。これまで団体間の連携があまりなかったため、横のつながりを強めてもらおうと企画されました。

交流会では同センターで毎月2回ほど練習に励む東京コンセルバトワールの子どもたち9人が、バイオリン演奏を披露。その後は和やかな雰囲気の中、参加者同士が名刺を交換しながら歓談。活動マップ作りやプロジェクターを使って各団体の紹介なども行われました。

同センター長の野村剛生（かねたか）さんは「それぞれの活動からワンステップ進んでつながってもらえれば。交流会はきっかけとして、その一歩になったと思います。できれば今後も続けていきたい」と話していました。

わくわくセンターで開かれた新春交流会

「食」と「トイレ」が重要

大地震に備えて体験教室

大地震発生時に大きな課題となる「食」と「トイレ」について対処の仕方を学ぶ体験教室「遊防災」が3日、寿町の市民ボランティア活動支援センターであった。家族連れや主婦ら40人が参加。簡易トイレの作り方や手軽にできる炊き出し方法などを教わった。

トイレのミニ講座では「あいち防災リーダー会」の間瀬トシ子さん（安城市）がミカン箱の段ボールで簡易トイレを作って見せ＝写真、「トイレは食事よりも重要。簡易トイレは身近なもので簡単にできます」と話した。ポリエチレン製の「ハイゼックス」に米を入れて炊き出しをする説明もあり、出来上がったご飯ととん汁を試食した。

また、県の地震体験車で阪神淡路大震災と同じ震度7の揺れを体験。参加者たちは悲鳴を上げたり、机にしがみついたりして、激しい揺れに耐えていた。参加した高松町の志賀秀子さんは「あんなに激しい揺れが突然きたらって考えると怖い。トイレについても考えてなかったので、参考になりました」と話していた。

「食」と「トイレ」が重要大地震に備えて体験教室　刈谷ホームニュース　2008 年 2 月 9 日

大地案発生時に大きな課題となる「食」と「トイレ」について対処の仕方を学ぶ体験教室「遊防災」が 3 日、寿町の市民ボランティア活動支援センターであった。家族連れや主婦ら 40 人が参加。簡易トイレの作り方や手軽にできる炊き出し方法などを教わった。

トイレのミニ講座では「あいち防災リーダー会」の間瀬トシ子さん（安城市）がミカン箱の段ボールで簡易トイレを作って見せ＝写真、「トイレは食事よりも重要。簡易トイレは身近なもので簡単にできます」と話した。 ポリエチレン製の「ハイゼックス」に米を入れて炊き出しをする説明もあり、出来上がったご飯ととん汁を試食した。

また、県の地震体験車で阪神淡路大震災と同じ震度7の揺れを体験。参加者たちは悲鳴を上げたり、机にしがみついたりして、激しい揺れに耐えていた。 参加した高松町の志賀秀子さんは「あんなに激しい揺れが突然きたらって考えると怖い。トイレについても考えてなかったので、参考になりました」と話していた。

貧しくとも心豊かに
ラオスへ絵本　刈谷でボランティア　翻訳文のシール張る

中日新聞　2008 年 2 月 23 日

アフガニスタン、カンボジア、ラオスの各国に絵本を送るボランティア活動が二十一日、刈谷市寿町の市民ボランティア活動支援センターであり、参加者が各国の言葉に翻訳された訳文シールを日本の絵本に切り張りした。

この日は、二十日に続く活動で、十人の市民らが参加。あらかじめ用意された訳文シールを台紙から切り抜き、印刷された日本語の上に一枚ずつ重ねた。

地域で読み聞かせ活動をしている市内の林節子さんは、今年で二回目の参加。一緒に来た知人にも張り付け方を教えながら、「恵まれない環境の子どもたちにも、心豊かな人に成長してほしいですね」と話していた。

このボランティアは、東京都に本拠を置く社団法人シャンティ国際ボランティア会の活動に協力し、昨年から岡センターが始めた。二十三日にも活動日を設け、五十冊ほどを送る予定だ。（吉田幸雄）

ラオスなどへ絵本

貧しくとも心豊かに

刈谷でボランティア 翻訳文のシール張る

スキルアップ講座「認知症について学び、地域で支えよう」

中日新聞 西三河版 2007 年 5 月 25 日

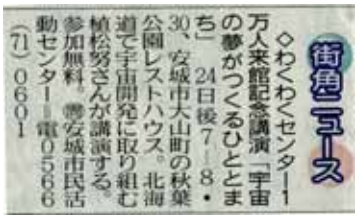
5月25日 西三河版

◇スキルアップ講座「認知症について学び、地域で支えよう」　6月2日後6・30、安城市の秋葉公園レストハウス。講師は母の認知症介護を経験した横山松男さん。来場者の意見交換もある。無料。問安城市民活動センター＝電0566（71）0601

6 月 2 日後6・30、安城市の秋葉レストハウス。講師は母の認知症介護を経験した横山松男さん。来場者の意見交換もある。無料。

わくわくセンター１万人来場記念講演
「宇宙の夢がつくるひととまち」　街角ニュース

24 日後7－8・30、安城市大山町の秋葉公園レストハウス。北海道で宇宙開発に取り組む植松努さんが講演する。参加無料。


街角ニュース

◇わくわくセンター1万人来館記念講演「宇宙の夢がつくるひととまち」　24日後7―8・30、安城市大山町の秋葉公園レストハウス。北海道で宇宙開発に取り組む植松努さんが講演する。参加無料。問安城市民活動センター＝電0566（71）0601

ローゼルを名産品に　社会福祉施設の自立支援へ
「自然に学び・ローゼルを育てる会」

安城ホームニュース 2007 年 4 月 28 日

「ローゼルを植えて福祉の花を咲かそう！」を合言葉に、新しい視点から社会福祉施設の自立支援を考えて活動する「自然に学び･ローゼルを育てる会」（高井邦彦代表）。

ローゼルは（ハイビスカスの一種で食用に適する植物。ハーブの一種としても知られ、がくやつぼみの部分を加工してティーやジャム、ゼリーなどに。また、ケナフのように二酸化炭素を多く吸収し、酸素をたくさん作り出すことから温暖化防止に、向けた取組みの中で注目が集まっています。

同会では社会福祉法人「ぶなの木工房」の畑やアイシン精機のエコ農園などで栽培を始め、ジャムとして商品化へ。ルビーのような赤色とさわやかな酸味が特徴で、安城の名産品になることを願って「あんローゼル」とネーミングしました。

一年草で春に種をまくと秋には1．2m近くまで成長し、きれいなピンク色の花を咲かせるローゼル。同会では社会福祉施設で安定して商品化できることを目指し、市内のあちこちでローゼルを栽培してもらえるよう、地道に呼びかけを続けています。

わくわく探り

ローゼルを名産品に

社会福祉施設の自立支援へ

市民活動センター

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

“まちの美化”は地域から　一昔前の風景を次世代へ
ビカジョガリ４・６

安城ホームニュース 2007 年 5 月 26 日

取り戻そう碧海のふるさとを一を合言葉に、半場川の清掃活動をする「ビガジョガリ4･6」(榊原シゲ子代表＝城ヶ入町)。

同グループは地域の人々と協力し、油ヶ淵へ注ぐ半場川の堤防の清掃活動や環境について考える会などを実施。油ヶ淵の現状を把握するための流水環境市民モニタリング事業で、半場川の水質調査にも協力しています。

自然に恵まれ、歴史的な史跡が多く点在する半場川周辺。デンパークから油ヶ淵水辺公園(計画中)までをウォーキングコースとして結び、自然を楽しみながら環境美化に関心を持ってもらえるような散策マップ作りも目指しているそうです。

「地域住民が参加してこそ“まちの美化”が定着すると思います。上流からきれいにするように呼びかけていくと共に、清掃活動を通して、心ない散乱者への啓発にもつながるのでは」と榊原さん。

メンバーらは「川で遊ぶことができた一昔前の環境や風景を、子どもたちに返したい」との願いも込め、地道な活動を続けています。

平成19年5月26日　土曜日　(2)

わくわく便り

“まちの美化”は地域から

一昔前の風景を次世代へ

ヒカジョガリ4･6

平成19年6月23日　土曜日　(2)

わくわく便り

心のバリアフリーを

付き添い必要な子ども支援

ガボラの会

心のバリアフリーを　「ガボラの会」

安城ホームニュース　2007 年6月 23 日

市内の小学校では、車いすで通学する児童などに対して、付き添いを求めることがあります。

「ガボラの会」(山崎瑞穂代表)は、付き添いが必要な子どもの学校生活を支援することを目的に、社会福祉協議会と学校ボランティアグループと連携をとりながら活動しています。

学校にボランティアグループが生まれたことで、常に付き添いをしていた保護者から「家事をする時間や家族と過ごせる時間が増えた」「親だとすぐに手を差し延べてしまうけど、ボランティアさんが付き添ってくれる時は、子どもが自分で努力をするようになった」など、うれしい声も寄せられるように。

「障がいのある子もない子も共に過ごすことで、心のバリアフリーが実現していくと思います。地域の大人が学校ボランティアとして関わることによって、子どもと顔見知りになり、地域の安心･安全にもつながるのでは」と山崎さん。ボランティア募集の声かけを地道に続けています。

同会は、学校ボランティアグループ間の情報交換や会を新設するための相談にも応じています。

将来見据え多くの体験を　必要なのは周囲の理解
自閉症サポートセンター「めーぷる」

安城ホームニュース 2007 年 7 月 28 日

自閉症を抱える子どもたちを見守り、将来の社会的自立に向けた支援を行う『自閉症サポートセンターめーぷる』。代表の鈴木寛さんは「自閉症の子どもが成人した時、社会にすぐに適応できないことがあります。その時のために多くの体験を積み重ねているんです」と話しています。

その体験の１つが自立課題の勉強会。机に向かって提示された教材に取り組むという、将来の就労を見据えたもの。また、陶芸や料理などの余暇活動にも取り組んでいます。

「余暇活動も身に付けさせるもの」と鈴木さん。「自分で楽しみを見つけることは難しい。楽しめるものを体験から学び、いくつか身に付けておくことで、息抜きの選択肢を増やしてあげたい」

今夏には自立課題の夏期勉強会「サマースクール」と、療育支援のためのアートセラピー教室を開催。

これらをお手伝いし、子どもと遊んでくれるボランティアさんも募集しています。

子どもたちの成長には多くの人との出会いや、かかわりが欠かせないもの。生まれ育った地域で安心して自立生活が送れるよう、「親同士の勉強会はもちろん、周囲の理解が何よりも必要」と、自閉症理解のための啓発活動や相談の対応などもされています。

ース　平成19年7月28日　土曜日　（2）

便り

将来見据え多くの体験を

必要なのは周囲の理解

自閉症サポートセンターめーぷる

平成19年8月25日　土曜日　（2）

便り

自然生かし自主保育

みんなで子ども見守る

まめっこ

自然生かし自主保育　みんなで子ども見守る
「まめっこ」

安城ホームニュース 2007 年 8 月 25 日

今回は秋葉公園などの自然を生かして自主保育をするグループ「まめっこ」

（太田まちこ代表）を紹介します。 自主保育とは就園･就学前の子どもと親が集まり、みんなで子どもを育て合うというもの。4 月から活動をスタートし、現在は 15 組の親子が参加。特別な決まりはなく、子どもたちの自主性に任せ、野外というフィールドで子どもたちが自ら遊びを見つけ出しています。

子どもが始める遊びはさまざま。キノコを発見したり、雨の日にカタツムリを探したり、自生するコケモモを食べたり、展望台から見える新幹線に触発されて電車ごっこを始めたり…。ひとりで遊ぶ子もいれば大勢で遊ぶ子もいて、それぞれの遊びをメンバーみんなが温かく見守っています。

「大人からは一緒に遊んでいないように見えても、よく見るとお互い意識し合い、影響し合いながら遊んでいます。子どもたち一人ひとりの『やりたい！』という気持ちを大切に、〝まめっこ〟の場だからこそできる遊びを思いっきり楽しんでいますよ」と太田さん。

ほかの公園で遊んだり、メンバーの企画で遠足に出掛けたりすることも。子どもたちが自然から学ぶたくさんの〝気付き〟、あふれる笑顔と笑い声、周囲の温かなまなざし。みんなで子どもを育てる新しい場が、少しずつ広がっています。

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

早くから環境問題に注目　来月 14 日に「消費生活展」
「安城消費生活学校」

安城ホームニュース 2007 年 9 月 22 日

エコ風呂敷バッグの実践運動や廃食油石けん作り、明治用水自転車道や公園の清掃活動、環境学習として工場や施設見学など―。昭和 49 年に設立された「安城市消費生活学校」（成瀬昌代代表）は早くから環境問題に注目し、エコライフの啓発などさまざまな活動をしています。

その一環で設立以来、他団体と協力して毎年「消費生活展」を開催。今年は「暮らしの中の環境～ごみ減量」をテーマに、10 月 14 日（日）に昭林公民館で。当日は環境カウンセラー・浅野智恵美さんの講演「どーする？　地球のあした」をメーンに、風呂敷の包み方体験や生ごみ堆肥作りの展示、防災など盛りだくさん。廃食油石けん・ぼかし（生ごみ堆肥化発酵促進剤）の配布や記念品の進呈もあります。

こうした活動が認められ、このたび愛知県知事から「ボランティア活動功労者表彰」を受けた同団体。成瀬さんは「受賞は代々活動されてきた皆さんのおかげです。一生懸命活動してくださるメンバーを思うとうれしいです。活動を長く続けていくためにも、次の代につなげていくことが必要ですね」と話しています。

平成19年9月22日　土曜日　（2）

便り

安城市消費生活学校

早くから環境問題に注目

来月14日に「消費生活展」

エコ風呂敷バッグの実践運動や廃食油石けん作り、明治用水自転車道や公園の清掃活動、環境学習として工場や施設見学など―。昭和49年に設立された「安城市消費生活学校」（成瀬昌代代表）は早くから環境問題に注目し、エコライフの啓発などさまざまな活動をしています。

その一環で設立以来、他団体と協力して毎年「消費生活展」を開催。今年は「暮らしの中の環境～ごみ減量」をテーマに、10月14日（日）に昭林公民館で。当日は環境カウンセラー・浅野智恵美さんの講演「どーする？　地球のあした」をメーンに、風呂敷の包み方体験や生ごみ堆肥作りの展示、防災など盛りだくさん。廃食油石けん・ぼかし（生ごみ堆肥化発酵促進剤）の配布や記念品の進呈もあります。

こうした活動が認められ、このたび愛知県知事から「ボランティア活動功労者表彰」を受けた同団体。成瀬さんは「受賞は代々活動されてきた皆さんのおかげです。一生懸命活動してくださるメンバーを思うとうれしいです。活動を長く続けていくためにも、次の代につなげていくことが必要ですね」と話しています。

平成19年10月27日　土曜日　（2）

便り

しっぽ～ズ

〝犬好き〟は集まろ～

きょう交通安全パレードも

〝犬好き〟は集まろ～　きょう交通安全パレードも
「しっぽ～ズ」

安城ホームニュース 2007 年 10 月 27 日

「安城ホームニュース」で愛犬家を呼び掛けて結成されたという「しっぽ～ズ」（林享子代表）。現在は犬好きな 52 家族、約 80 匹の犬が集まっています。

活動は「わんこの運動会」や遠足、お散歩会など。「グループに職業や年齢は関係なく、初めて参加される方でも犬を介して仲良くなります」と林さん。交流は月１回ほどで、毎回多くの方が参加しています。

犬を連れ、お掃除会も開催。「飼い主のマナーの悪さによって、犬の散歩場所がなくなりかねない」という思いがあるそうで、グリーンロード周辺で放置糞（ふん）の清掃やホームページでエチケットウォーク（散歩時の清掃活動）の呼び掛けも。

きょう２７日に開催される「安城サンクスフェスティバル」の交通安全パレード（午前 10 時 25 分から碧信本店前スタート・雨天中止の場合有り）にも毎年参加。わんこたちの行進に、沿道からも歓声が上がるとか。フリーマーケットにも出店し、売り上げの半分を盲導犬協会に寄付する活動も行っています。

活動の詳細は「あんじょう市民活動情報サイト」をご覧ください。

日ごろの助け合い大切　25 日は「防災フェア」も　安城ホームニュース 2007 年 11 月 24 日

防災の知識や技術を習得した実践的リーダーを養成するため、愛知県が開催した「あいち防災カレッジ」。その修了生と、安城市内で防災啓発に熱意を注ぐ人たちで構成する「あいち防災リーダー会・安城」（鳥居肇代表）は、市民防災の核を担って啓発活動に取り組んでいます。

メンバーは一級建築士や市職員、会社員など多彩な顔ぶれで、半数以上は防災士（日本防災士機構認定）の資格も。会が主催する防災啓発や体験講座のほか、地域では個々のメンバーがさまざまな活動を通して、防災意識の高揚に尽力。「個々の活動は会で集約しています。肩書きなどは関係なく、活発に意見交換もしていますよ」と鳥居さん。

25 日（日）に文化センターで開催される「防災フェア」（午前 10 時－午後 3 時）にも参加。当日は啓発ブースの一画で〝震災すごろく〟や〝絵カードによる非常持ち出し品選び〟など、楽しみながら防災が学べる企画を予定しています。

「災害時は〝向こう三軒両隣〟の心が求められる。それには日ごろからの助け合いが大切」と、明日にも起こりうる大地震に備え、防災リーダーたちの地道で確実な活動がこれからも続きます。

平成19年11月24日　土曜日　（2）

日ごろの助け合い大切

25日は「防災フェア」も

あいち防災リーダー会・安城

安城ホームニュース

笑顔いっぱいのまちに

子育て支援へ冊子発行

笑顔いっぱいのまちに　子育て支援へ冊子発行　東町の杉浦さん

安城ホームニュース 2008 年 1 月 26 日

安城の子育て支援に関する情報をまとめた冊子『知っとこまい！

安城市の子育て・児童福祉』が、わくわくセンターに登録している個人ボランティアさんの手によって、このほど編集されました。

「安城の児童福祉の全体像が見えるものを作りたかった」と編集者の杉浦久子さん＝東町。「子どもの笑顔いっぱいのまちになるように」との願いが込められた冊子は、「母子の健康と医療」「子育て支援団体」「ひとり親」「障害児支援」「児童相談」「児童福祉施設一覧」など、あらゆる情報が網羅されています。　市内に散らばる子育て支援の情報を集約するため、安城市内の児童に関する施設を見学。資料提供などの協力を得て、発行の運びとなりました。

杉浦さんは昨年にも高齢者の福祉サービスについてまとめた冊子『知っとこ！安城の高齢者福祉』を作製。「こんな情報待ってた！」と反響も大きく、子育て支援に関する第 2 弾を発行することに。

「子育てで行き詰まったとき、いろいろな選択肢があることを知るだけで楽になれます。視野が広がることで子育てを楽しく感じてもらえればうれしい」とほほ笑む杉浦さん。

冊子は安城市民活動センターや児童センターで閲覧できます。

NPO愛知ネット　マスコミ･メディア活動記録2007

すべての活動は、災害時の情報のために

楽しく環境問題学ぼう　ご当地「カルタ」も登場　環境劇団「いるか」

安城ホームニュース 2008 年 2 月 23 日

遊びを通して環境問題を地域の人々に伝える「環境劇団いるか」。ゴミ問題や地球温暖化防止といった難しくなりがちなテーマを、分かりやすく関心が持てるように劇や紙芝居、ゲームなど、さまざまな方法で啓発しています。

今回、新しい PR 方法として取り入れたのが『安城ご当地環境カルタ』。環境にまつわる地元の自然や文化、歴史、施設などを題材に、五・七・五の俳句で詠みあげたものをカルタにしています。

「子どもたちにも楽しみながら環境を学んでもらいたくて考案しました」と事務局の繁田貞一さん＝二本木町。読み句をみんなで考え、絵札に掲載する写真も撮影したという手作りカルタです。

実際にカルタで遊んでもらうと、「ここ知ってる！」と身近な題材に子どもたちの反応もグッド！

「安城にこんな史跡（名所）があったんだ」と大人たちも興味を持ってくれるとか。

そんな『安城ご当地環境カルタ』を、3 月 16 日まで、わくわくセンター（秋葉公園レストハウス内）に展示しています。ぜひお立ち寄りください！

また、『安城ご当地環境カルタ』をイベントなどで利用したい方は環境都市推進課までお問い合わせを。

第527号　安城

楽しく環境問題学ぼう

ご当地「カルタ」も登場

環境劇団いるか

ニュース　平成20年3月22日　土曜日　(2)

住みよい地域づくり

ボランティアネット

北明治の会

ボランティアネット「北明治の会」住みよい地域づくり　設立 10 周年で記念誌も発行

安城ホームニュース 2008 年 3 月 22 日

地域を大切に、子どもから年配の方まで、さまざまな交流を図る『ボランティアネット北明治の会』。北明治地区（明治本町･大東町･昭和町）で「誰もが安心して暮らせる、住みよいまちづくり」の役を担い、地域福祉活動や地域ふれあい活動などをしています。

設立 10 周年を記念して会員同士の交流会を開催した同会。代表の柴田綾乃さん＝大東町＝は「10 年前は介護保険もなく、各町内に福祉委員会もなかった」と設立当初を振り返り、「会の名前を言っても分かってもらえませんでしたが、今では知名度も上がりました」とニッコリ。活動が浸透していることが伺えます。

今ではすっかり「地域の顔」になった同会。防犯パトロールをする会員の名前を、いつの間にか覚えてしまった子どもたちや、地区内の福祉施設に通所している方が、会のユニフォームとも言える黄色のエプロンを見つけてあいさつをする姿も。

さらに『ボランティアネット北明治の会－10 年のあゆみ』の記念誌を発行。これまでの活動内容などを分かりやすくまとめました。 記念誌は、わくわくセンター（秋葉公園レストハウス内）で閲覧できます